

# 教育ビジョン改定に係る アンケート報告書

令和7年7月作成



# 目 次

---

01	はじめに	・ ・ ・ ・ ・	3
02	小学生（5・6年生）	・ ・ ・ ・ ・	5
03	中学生	・ ・ ・ ・ ・	15
04	保護者	・ ・ ・ ・ ・	26
05	教職員（小中学校）	・ ・ ・ ・ ・	37
06	町民	・ ・ ・ ・ ・	48
07	おわりに	・ ・ ・ ・ ・	62

# 01 はじめに

---

この報告書は、国見町教育委員会が策定を進めている「教育ビジョン2021」の改訂に向けて、町民の皆さまから広く意見を募り、その声を丁寧に受け止めたうえで、今後の教育施策に反映していくための基礎資料としてまとめたものです。

今回のアンケートは、町内の小学生、中学生、その保護者、教職員、そして一般町民を対象に実施しました。それぞれの立場から、国見町の教育の現状や課題、今後の方向性についてどのように捉えているのかを明らかにすることを目的としています。

皆さまから寄せられたご意見は、教育の現場や町の未来を支えるための貴重な示唆となるものばかりです。本報告書を通じて、それぞれの声に込められた思いを共有し、次期教育ビジョンの策定に向けた議論の土台として活用させていただきます。

## 01 はじめに

### アンケートの概要

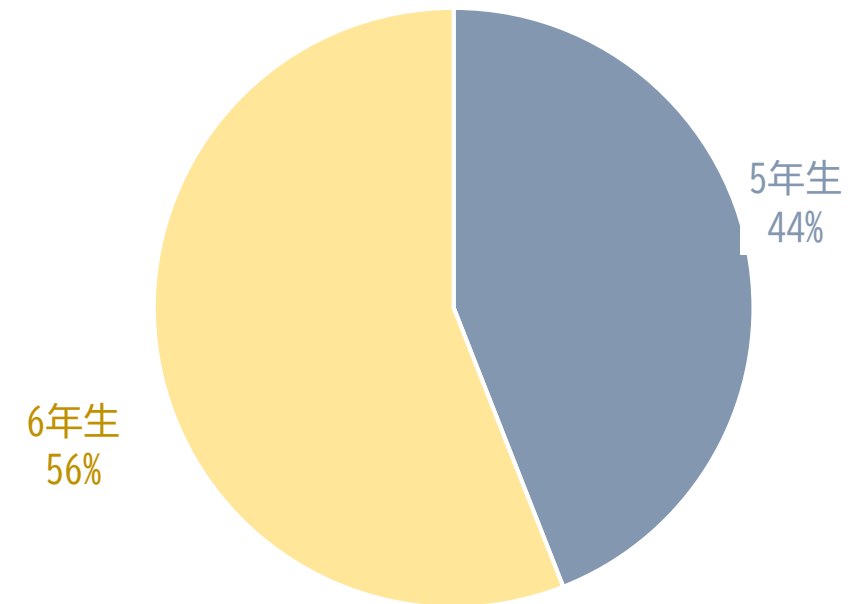
- (1)実施主体:国見町教育委員会
- (2)対象:左表の5グループで実施
- (3)実施方法:web及び紙による配布・回収
- (4)回答形式:選択式および自由記述式
- (5)匿名性:すべて匿名にて実施
- (6)設問数:各グループ 約15問
- (7)配布時期:令和7年6月上旬
- (8)回収締切:令和7年6月28日
- (9)集計・分析:国見町教育委員会 教育総務課

グループ	主な目的・意図	配布数	回答数	回収率
A 小学生 (5・6年)	学校生活の満足度、学びへの実感、将来への期待など、施設や設備へ満足度など	83	83	100.00%
B 中学生	学びへの意欲、進路意識、ICTや探究学習への意見、施設や設備への満足度など	139	114	82.01%
C 保護者	教育への満足度、要望、家庭・学校・地域連携への意見など	289	126	43.60%
D 教職員 (小・中)	教育現場の課題、今後の方向性、教育施策に対する現場視点の提案など	39	34	87.18%
E A～D以外の町民 (無作為抽出)	学校とのかかわり、教育への期待、地域の役割など	2,000	444	22.20%
計		2,550	801	31.41%

## 02 小学生(5・6年生)

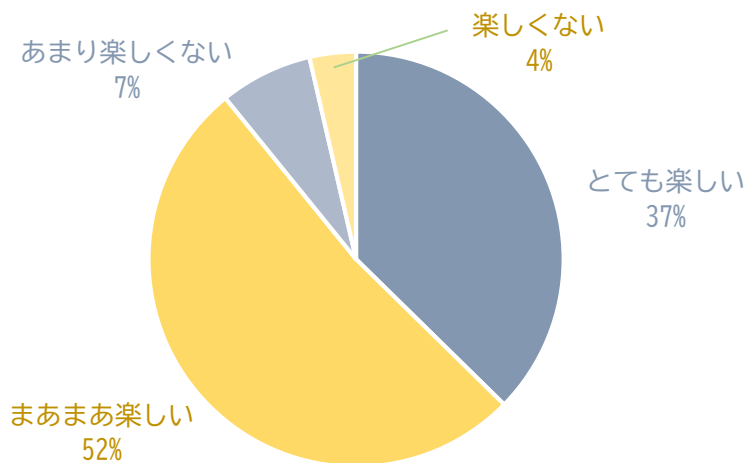


Q1 あなたは何年生ですか？



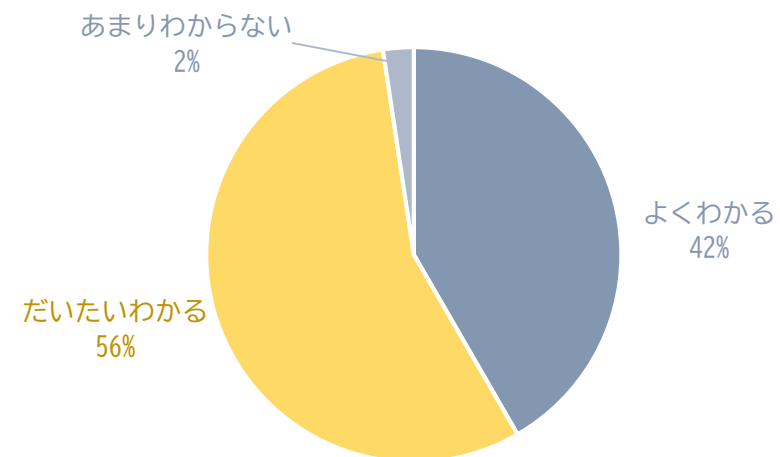
## 02 小学生(5・6年生)

### Q2 学校へ行くのは楽しいですか？



児童の多くが「楽しい」または「まあまあ楽しい」と回答しており、学校生活に対して概ね前向きな感情を抱いていることがわかります。これは、日常の授業活動や友人関係、先生との関係などにおいて一定の満足感を得ていることを示しています。ただし、「あまり楽しくない」と回答した児童も一部存在するため、学級経営や個別の学校体験に関する多様な実態を丁寧に拾い上げることが重要です。

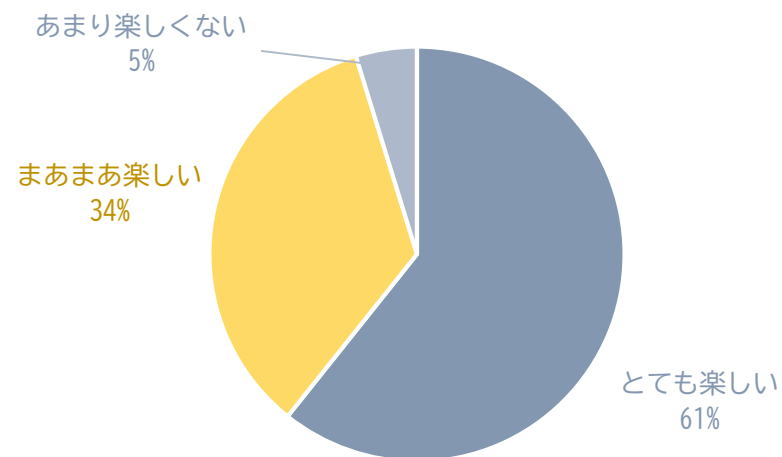
### Q3 授業はわかりやすいですか？



授業のわかりやすさに関しては、「だいたいわかる」と答えた児童が最も多く、「全くわからない」という回答はありませんでした。このことから、一定の理解度は確保されていることがうかがえます。ただし、「あまりわからない」といった回答もあり、授業のスピードや教え方がすべての児童にとって十分であるとは限らない可能性があります。特に基礎的な内容やつまずきやすい単位については、個別の理解度を見極めた上で丁寧なフォローアップを行うことが求められます。

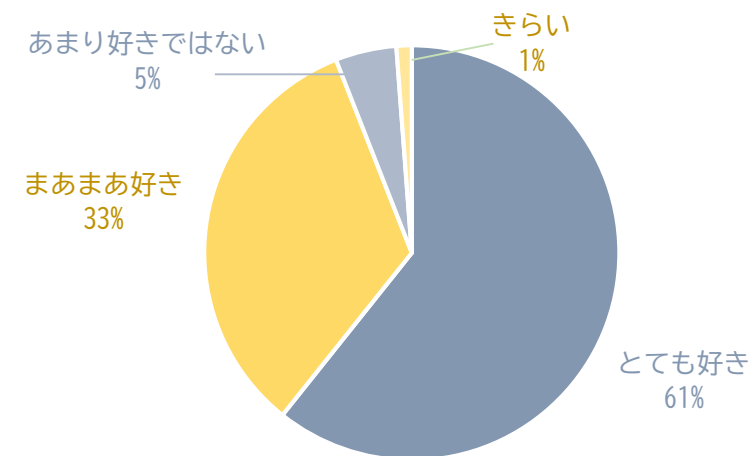
## 02 小学生(5・6年生)

### Q4 友だちと協力して勉強するのは楽しいですか？



友だちと協力して学ぶことについて、多くの児童が「楽しい」と感じており、協働的な学びに対する好意的な印象が伺えます。グループワークや共同調査、発表などを通じた活動は、単に知識を深めるだけでなく、コミュニケーション力や相互理解を育む機会として有効です。一方で「楽しくない」と感じている児童はいませんでした。一方、「あまり楽しくない」と4名の児童が回答しています。人間関係上の不安や役割の偏りなどが背景にある場合が考えられるため、活動内容のバランスや個々の性格特性に応じた配慮が求められます。

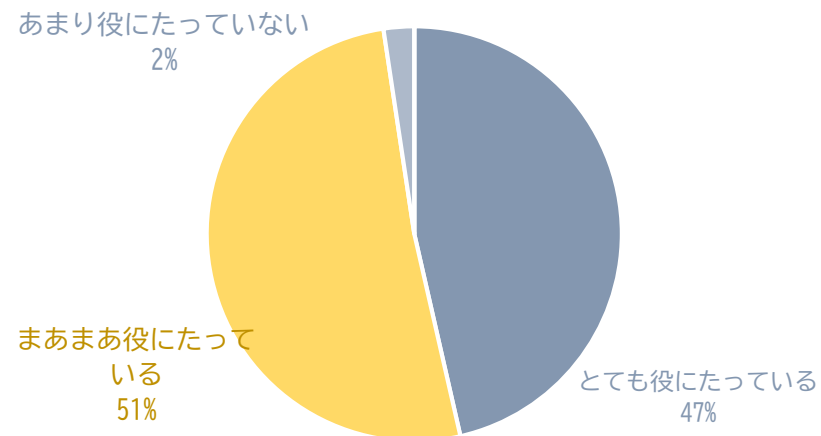
### Q5 ICT機器（タブレットやパソコンなど）を使った授業は好きですか？



ICTを使った授業への好感度は高く、「とても好き」「まあまあ好き」と答えた児童が多数を占めています。タブレットやPCを活用した学習活動は、視覚的・操作的に刺激を与えるとともに、児童の主体的な学びを促す効果も期待されます。ただし、操作に不慣れな児童や目の疲れを訴える児童への配慮、そして情報機器の使用マナーについての指導も併せて必要となります。

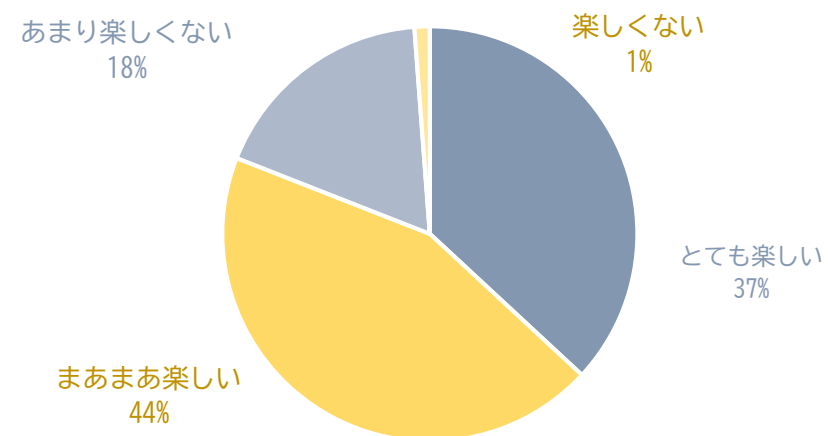
## 02 小学生(5・6年生)

### Q6 ICT機器（タブレットやパソコンなど）を使った授業は役にたっていますか？



ICTの授業が「役に立っている」と回答した児童が多数を占めており、情報活用能力の育成や理解促進に一定の効果があると考えられます。一方で「役に立っていない」と答えた児童はいませんでした。一方、「あまり役に立っていない」と回答した児童が存在し、単なる機器の導入に留まらず、教材の質や教員の指導方法が授業効果に影響している可能性があると考えられます。今後は、教員研修や授業設計の工夫を通じて、ICTの特性を活かした有効な学習環境づくりが求められます。

### Q7 探究的な学習（調べ学習や発表など）は楽しいですか？

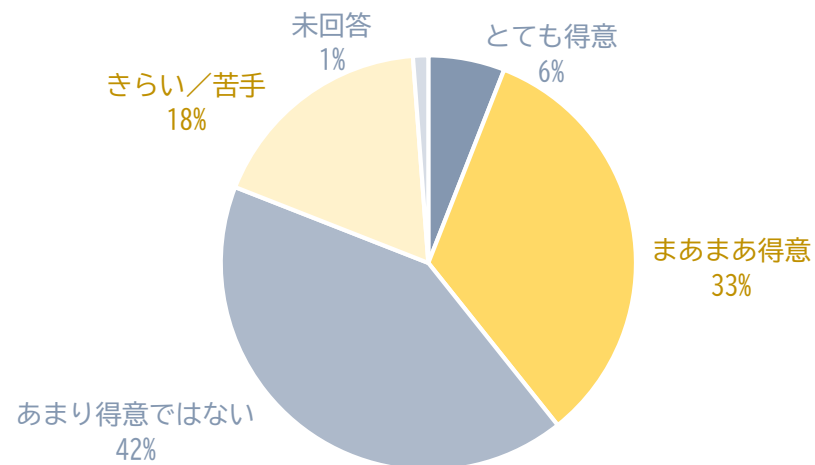


探究的な学習への印象としては、「楽しい」と答える児童が多数派であり、自らテーマを設定し、調査・整理・発表を行う一連のプロセスにやりがいを感じていることがうかがえます。これにより、学ぶ意欲や主体性が引き出されると同時に、他者の考えに触れることで視野の拡大も期待されます。ただし「楽しくない」とする児童も少数ながらおり、児童の興味関心にマッチしていない可能性もあるため、個別性に応じた指導が求められます。



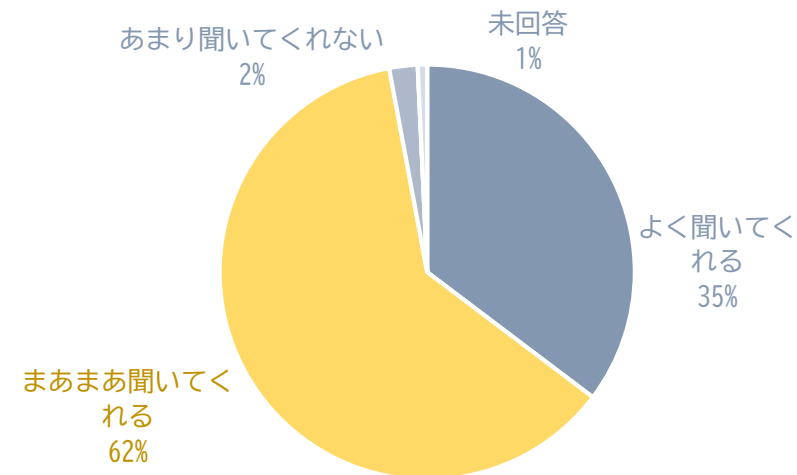
## 02 小学生(5・6年生)

Q8 自分の考えを発表するのは得意ですか？



この設問では、「得意」「まあまあ得意」とする児童と、「あまり得意ではない」「苦手」と答える児童の割合が拮抗しており、自己表現に対する自信に個人差が大きいことが示されています。自分の意見を伝える力は、今後の社会でますます重要になる資質であるため、日常的に意見を発表する場を設けたり、失敗しても受け入れられるような安心感のある学級づくりが重要です。

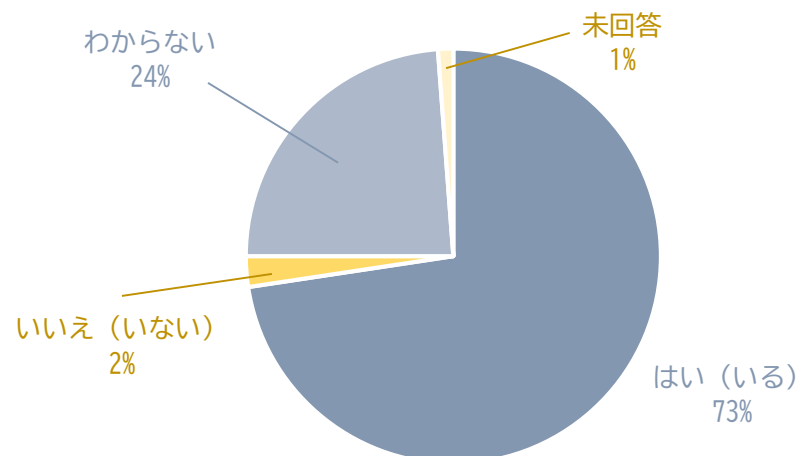
Q9 先生はあなたの話をよく聞いてくれますか？



児童の多くが「よく聞いてくれる」「まあまあ聞いてくれる」と感じており、教員と児童の間に良好な関係性が築かれていることがわかります。一方、「あまり聞いてくれない」「全く聞いてくれない」と感じている児童もあり、すべての児童が安心して声を出せるようにするため、日々の声かけや受け止める姿勢を継続して示していくことが重要です。

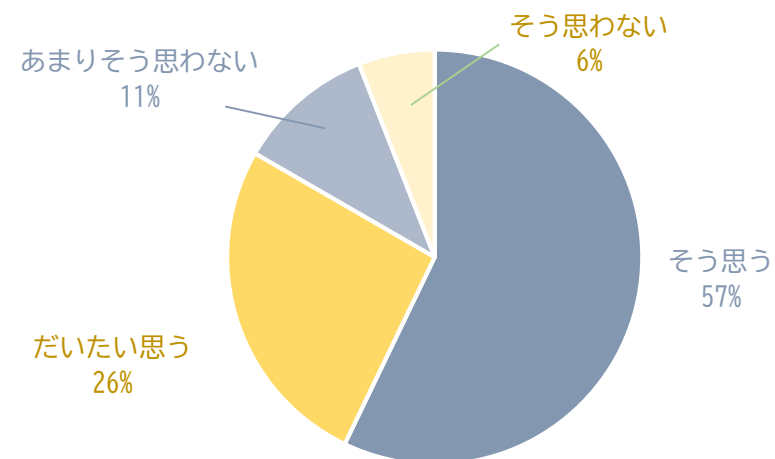
## 02 小学生(5・6年生)

### Q10 困ったときに相談できる先生や大人はいますか？



相談できる大人の存在を肯定的に捉えている児童が多数であり、学校内における信頼関係の形成がある程度なされていることが示唆されます。ただし、「いない」と回答する児童もあり、学校における“セーフティネット”がすべての児童に十分に届いているとは限らない可能性もあります。定期的なアンケートや面談等を通じて、誰にでも声をかけられる環境づくりが求められます。

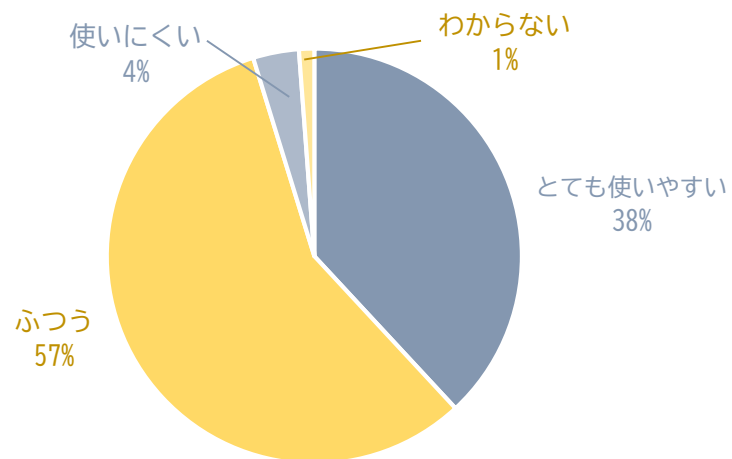
### Q11 いじめについて、学校はしっかり対応していると思いますか？



「思う」「だいたい思う」という回答が多く、学校のいじめ対策に対して一定の信頼が寄せられていると考えられます。一方で「思わない」「あまり思わない」という回答も少数ながら存在しており、表面的な取り組みだけでなく、児童が安心感を持っていただけるかどうか問われています。今後も日頃からの人間関係づくりや早期発見の仕組みづくりが継続して求められます。

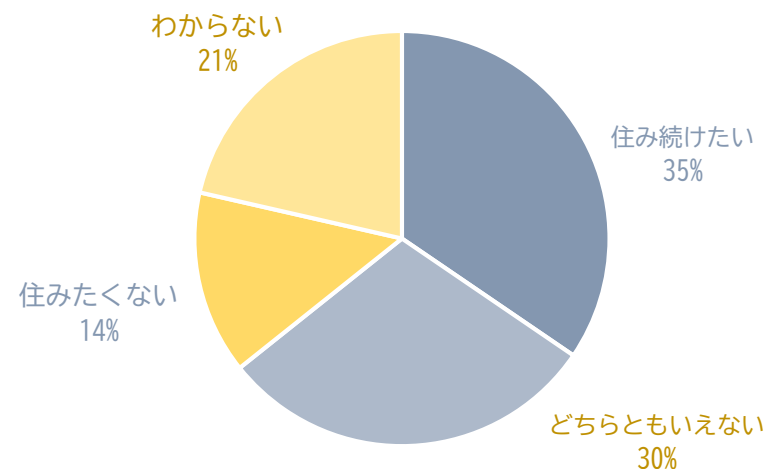
## 02 小学生(5・6年生)

Q12 教室、図書室、体育館、トイレなど、  
学校の設備は使いやすいですか？



設備の使いやすさについては、「使いやすい」「まあまあ使いやすい」と感じている児童が大多数であり、基本的な学習環境に対する満足度は高い傾向にあります。ただし、トイレや冷暖房設備など、日常的に不便を感じやすい部分については、児童の声をもとに改善の余地があります。

Q13 将来、国見町に住み続けたいと思いますか？



地域への定住意向について、「住みたい」「まあまあ住みたい」と答えた児童が多数を占めています。これは、国見町に対する安心感や愛着が一定程度育まれていることを示していますが、一方で「住みたくない」「わからない」という回答も見られ、将来の進学や就職において町外との比較を意識している傾向も読み取れます。今後の施策では、子どもたちにとって魅力ある地域づくりと情報発信の強化が必要です。

## 02 小学生(5・6年生)

### Q14 前の質問(Q13)で答えた理由はなぜですか？

Q13『将来、国見町に住みつづけたいと思いますか？』の回答を3分類(そう思う／どちらともいえない／住みたくない・わからない)に分け、内容を分析しました。各分類では、代表的な自由記述例を紹介するとともに、その背景にある児童の価値観や地域に対する意識を読み解き、教育施策への示唆を提示しています。

#### 1 そう思う(住みたい)

- ・とても安心する町だから
- ・災害が少なくて住みやすいから
- ・国見町の人が優しいから
- ・地元だから
- ・自然がいっぱいだから
- ・たのしいからです

「住みたい」と回答した児童の多くは、安心感・人の温かさ・自然環境の豊かさといった、日常生活における「体感的な心地よさ」を重視している様子がうかがえます。中には「災害が少ない」といった具体的な地理的特徴に言及するものもあり、家庭や学校からの安全教育の影響が背景にあると考えられます。抽象的な言葉であっても、子どもたちが国見町を「好き」と思える要素を感覚的に捉えていることが読み取れます。

#### 2 住みたくない

- ・お店が少ないと思うから
- ・仕事があんまりないから
- ・100均が無いから
- ・田舎だから
- ・国見よりもいいところがあると思うから

「住みたくない」と回答した児童は、「店が少ない」「働く場所がない」といった生活利便性や将来の就労環境に対する不安を挙げています。小学生の回答でありながらも、家族の会話や日常の不便さからこうした意見が出ている点は見逃せません。特に「100均がない」という具体的な指摘は子ども達が日常生活の中で感じている不便さを反映したものです。こうした声の背景には、買い物環境の限られた選択肢や他地域との比較があると考えられます。

#### 3 どちらともいえない／わからない

- ・国見は無くなっているかも知れないから
- ・会社がないから
- ・将来、違う学校に行ったり高校に行くかもしれないから
- ・友達とは、一緒にいたいけどまだわからない。

「わからない」と回答した子どもたちは、将来の自分の暮らしや町の状態をまだイメージしきれない段階にあると考えられます。「町がなくなっているかも」といった不安や、「進学・就職」など先のライフイベントを見据えた迷いが表れています。また、「友達と一緒にいたいけど…」という記述からは、人間関係への愛着と将来への不確実性の間で揺れる心情も読み取れます。これらの声に対しては、将来の国見町のビジョンを児童にも伝わる形で語り、希望を持たせるような教育的アプローチが求められます。

## 02 小学生(5・6年生)

### Q15 学校で「もっとこんなことをしてみたい！」

自由記述の内容は多岐にわたりましたが、主に以下のような傾向が見られました。

#### 1. 遊び・レクリエーション活動の充実

「学校かくれんぼ」「夏祭り」「流しそうめん」「お祭りを主催したい」など、遊びやイベントを自分たちで楽しみたいという声が多くありました。学校という場が学びの場であるだけでなく、自由に楽しむ空間であってほしいという願いが強く表れています。

#### 2. 音楽・文化活動

「朝の会で人気の曲を歌いたい」「合唱やダンスをしたい」など、音楽や表現に関心を示す子どもが一定数存在しました。これは、学校行事や日常の活動において、表現する機会が子どもにとって印象深く、また楽しい体験として記憶されていることを示唆しています。

#### 3. 学年・学級間の交流

「他の学年ともっと交流したい」「5年生みんなで県外に行きたい」など、学年を越えた活動を望む声が複数見られました。これは、学級単位で閉じた人間関係ではなく、より広い交流によって刺激を受けたいという子どもの内発的な動機を示しています。

#### 4. 学校設備や時間に対する希望

「長い休み時間がほしい」「もっとプールを増やして」「ICTの授業をもっと増やしてほしい」といった要望が散見されました。これらは学習環境の改善や、より柔軟で自由な時間の設定に対する関心の高さを示しており、今後の学校運営への貴重な示唆となります。

#### 5. 否定的回答・現状満足

「ない」「とくにない」「なし」など、現状に対して特に不満を持たない子どもも一定数存在しています。これは、学校生活が一定程度満足できる内容であると受け止められている可能性を示しています。

子どもたちの「やってみたいこと」は、単なる要望にとどまらず、学校という空間に対する理想像や期待を表しています。「主催したい」「企画したい」という意見からは、学びの場でありながら、自己実現や達成感を得られるような経験を求めている様子が見て取れます。また、学校生活の中で“楽しい”という感覚がいかに重要かを再認識させられると同時に、こうした感覚を基盤にした教育設計が求められます。

## 02 小学生(5・6年生)

### 自由記述から見える教育ビジョン改訂へのインサイト

#### 1. 「家族」や「友だち」が“住み続けたい理由”の中心

自由記述 小学生にとって「人とのつながり」が居住意識を左右する最も大きな要因となります。家族・地域コミュニティを基盤とした安心感の形成が重要です。

#### 2. 「今の暮らしへの満足」と「変化への不安」

自由記述 現状への満足と変化への抵抗が同時に存在。これは、安心できる環境＝良い町という感覚の表れであり、町が提供する日常の安定性を子どもたちは敏感に感じ取っています。

#### 3. 「進学」「仕事」など将来に伴う町外流出への“予感”がすでにある

自由記述 すでに子どもたちの中に「町から出るのが当たり前」という文化が存在しています。これは家庭やメディア、地域の大人の発信の影響と考えられるため、地元への多様なキャリア観の提示が求められます。

#### 4. 「何もない」「遊ぶ場所がない」という声が定着しつつある

自由記述 町の魅力を「見つけられない」「伝えられていない」状態。子ども自身が町の魅力を探す体験や、「〇〇で遊べる」というポジティブな選択肢の発信が必要。

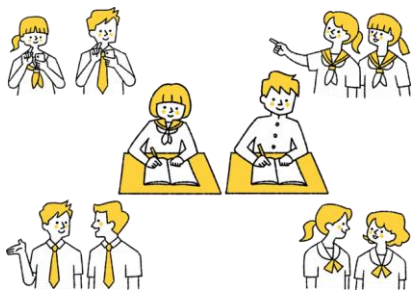
#### 5. 「よくわからない」「まだ決めていない」も重要なメッセージ

自由記述 自由記述は、子どもたちの率直な“声”であり、その中には未来の教育・地域社会の姿を照らすヒントが詰まっています。今回の分析結果は、教育ビジョン改訂の方向性を考える上で、貴重な足がかりとなります。

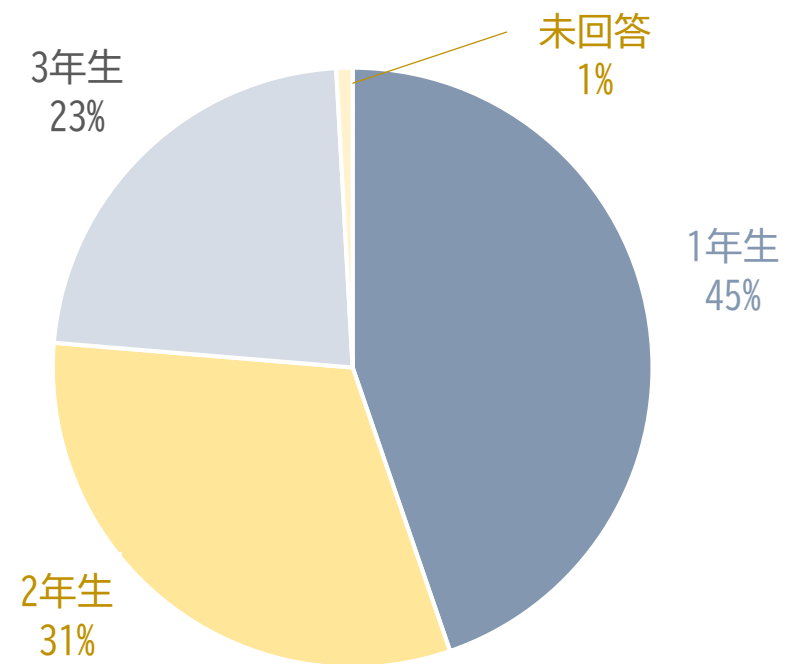
小学生は、「人とのつながり」や「今ある安心」に強く価値を感じている一方で、将来の可能性や選択肢についてはまだ漠然としたイメージしか持っていません。

教育ビジョンの改定においては、地域に根ざした「安心感のある暮らし」を土台としつつ、子どもたちが地元での将来像を“想像できる・選べる”ような体験の設計や町の魅力を知る・伝える・発信する力を育てるカリキュラムづくりが求められます

## 03 中学生

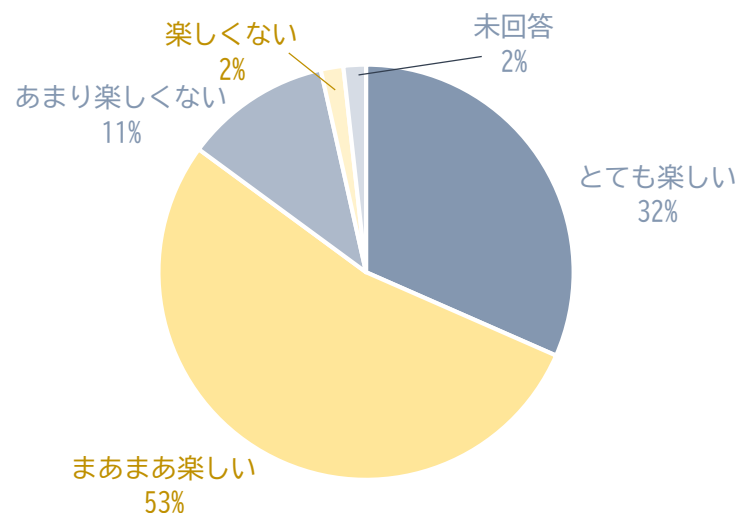


Q1 あなたは何年生ですか？



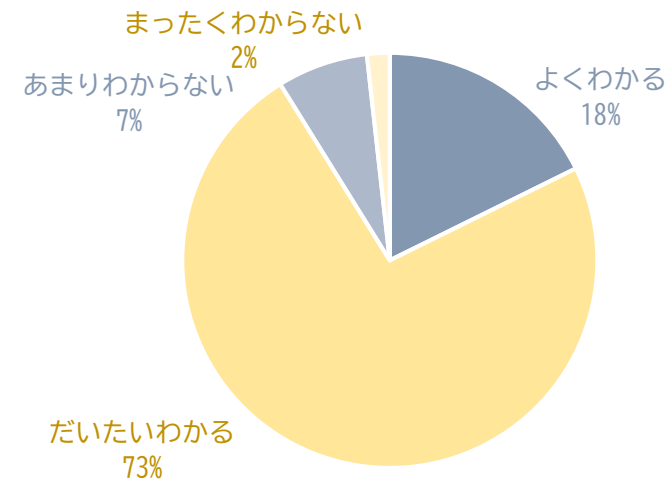
## 03 中学生

### Q2 学校生活は楽しいですか？



『とても楽しい』『まあまあ楽しい』と答えた生徒が全体の約8割を占めており、多くの生徒が日常の学校生活を前向きに捉えていることがわかります。一方で、『あまり楽しくない』『楽しくない』という回答も一定数あり、特に3年生からは進路や人間関係、学業の負担などが影響している可能性があります。

### Q3 授業はわかりやすいですか？

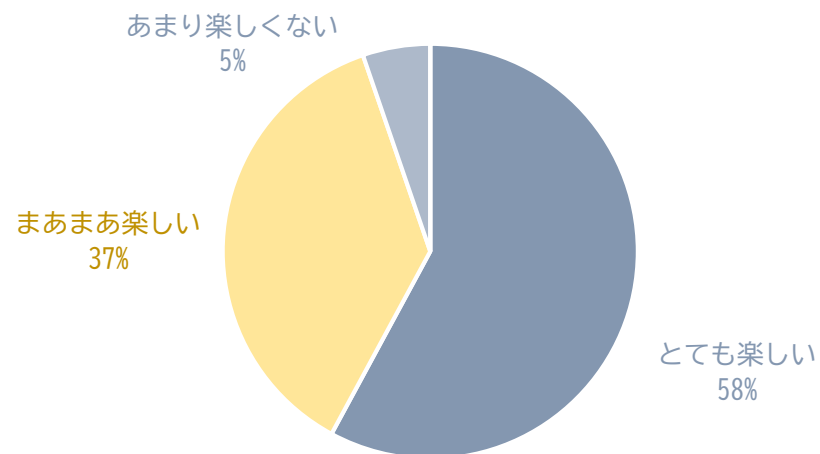


約9割の生徒が『よくわかる』『だいたいわかる』と回答しており、授業の内容や教員の説明が生徒にとって十分に伝わっていると考えられます。しかし『まったくわからない』『あまりわからない』と答えた生徒も10名程度いることから、個別のフォローアップや少人数指導などの検討が有効と思われます。



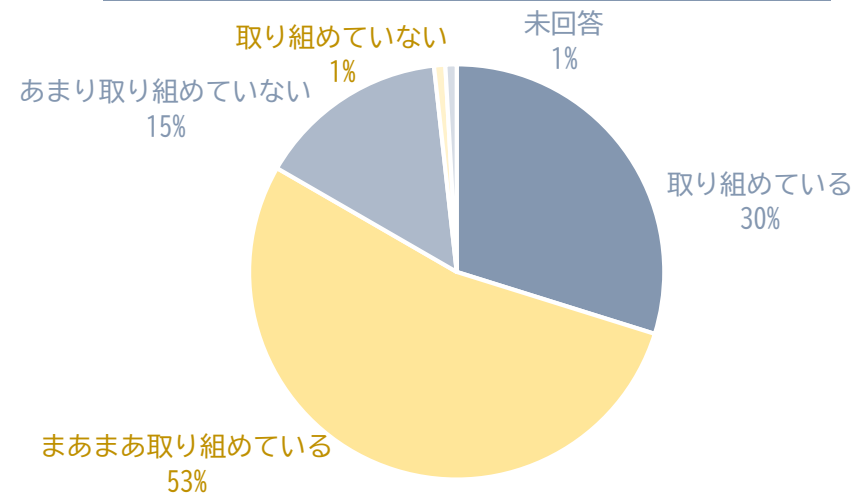
### 03 中学生

#### Q4 友だちとの対話を通して学ぶ授業は楽しいですか？



『とても楽しい』が最多で、『楽しくない』と答えた生徒はいませんでした。協働的な学びが生徒にとって好意的に受け止められている様子が伺えます。一方で『あまり楽しくない』とする回答も少数ながら存在し、人前での発表や他者との関係に不安を感じる生徒がいる可能性もあります。グループ活動の方法や役割の設定に工夫を加えることが望まれます。

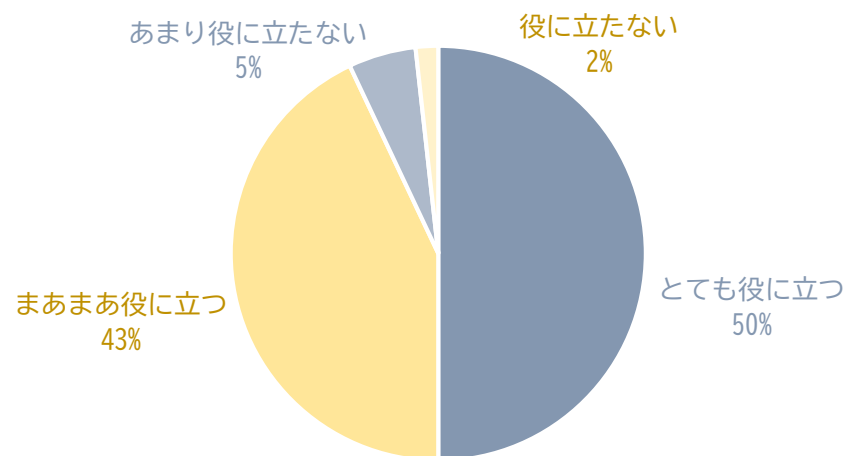
#### Q5 自ら進んで学習に取り組んでいますか？



『まあまあ取り組んでいる』『取り組んでいる』が約8割で、生徒の自主性や学習習慣は概ね確立されているといえます。ただし『あまり取り組めていない』『取り組めていない』の回答も一定数あり、家庭学習の習慣化やモチベーションの低下が要因として考えられます。学習方法の指導や達成感を得やすい仕掛けづくりが今後の課題となります。

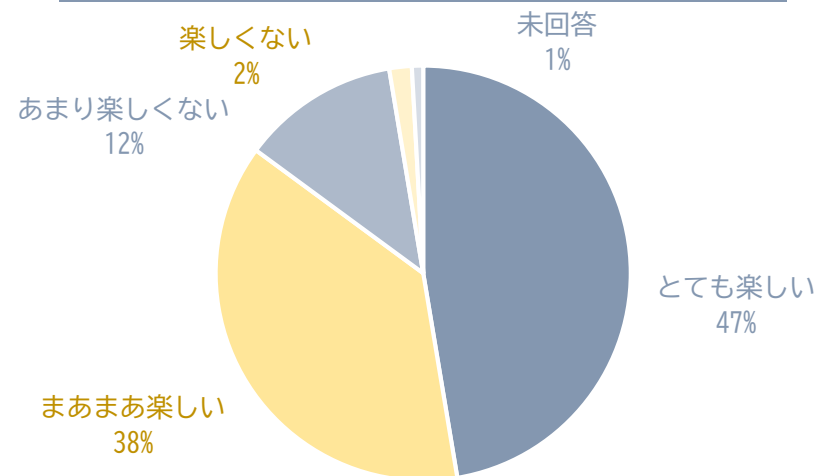
### 03 中学生

#### Q6 ICT機器（タブレットやパソコンなど）を使った授業は役に立っていますか？



『とても役に立つ』『まあまあ役に立つ』と答えた生徒が9割以上に達し、ICT機器の利活用が学習に効果を与えていることが示唆されます。ただし『あまり役に立たない』『役に立たない』との回答もわずかに存在し、活用のバリエーションや目的の明確化に課題がある可能性も否定できません。ICTの有効活用について教員側の指導力も求められる分野です。

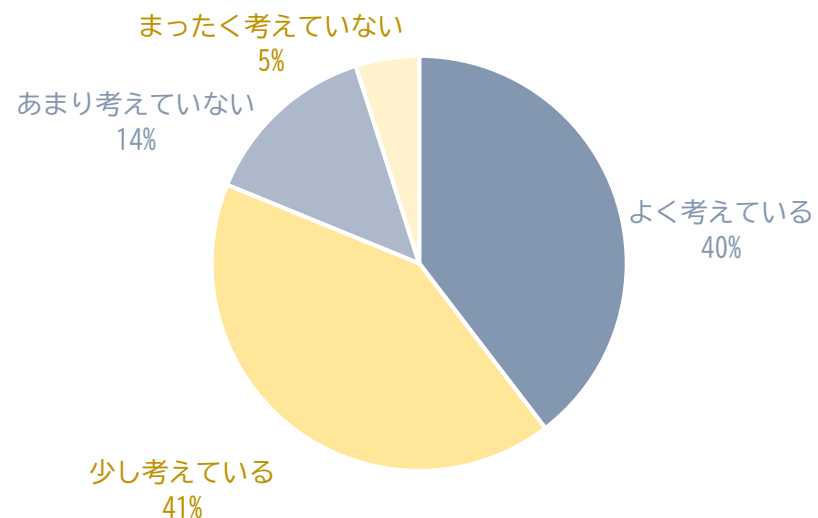
#### Q7 探究的な学習（調べ学習や発表など）は楽しいですか？



『とても楽しい』『まあまあ楽しい』との回答が8割を超えており、探究活動が生徒の学習意欲を喚起していると考えられます。一方、『あまり楽しくない』『楽しくない』の回答もあり、テーマ設定の自由度や達成感にばらつきがある可能性が考えられます。個別の関心に応じたテーマ選定や振り返り活動の工夫が今後の鍵となります。

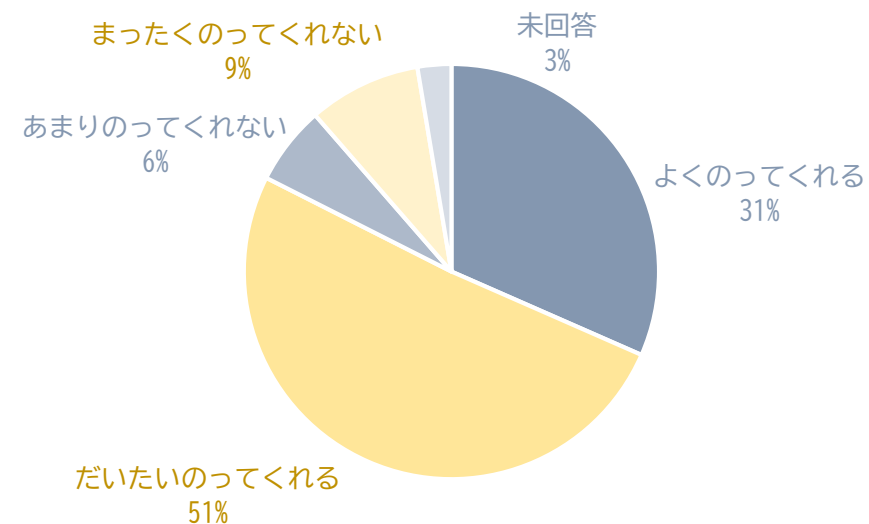
### 03 中学生

#### Q8 将来の夢や進路について考えていますか？



『よく考えている』『少し考えている』が多数派で、進路に対する意識が一定程度育まれていることがわかります。一方で『あまり考えていない』『まったく考えていない』とする生徒が約3割存在しており、特に低学年では将来に対するイメージが描きづらい状況も見取れます。キャリア教育の早期実施や、身近な大人との対話機会の充実が効果的と考えられます。

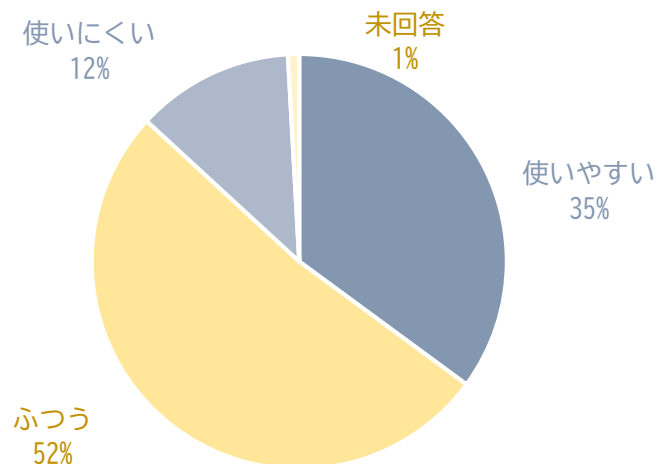
#### Q9 学校の先生は、進路の相談にのってくれますか？



『だいたいのってくれる』『よくのってくれる』が多く、教員と生徒の関係が信頼に基づいていることが読み取れます。一方で『あまりのってくれる』『まったくのってくれる』との回答も1割以上あり、相談しづらさや信頼関係の差異が課題として挙げられます。進路相談の機会が個別に保障されるよう体制整備を進める必要があります。

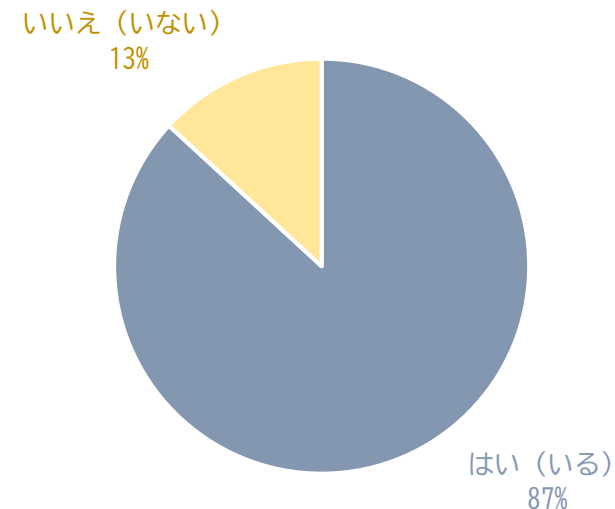
### 03 中学生

#### Q10 学校の施設（教室、トイレ、体育館、図書室など）は使いやすいですか？



『使いやすい』『ふつう』と答えた生徒が約9割を占め、学校施設の基本的な環境整備はおおむね満たされていると考えられます。ただし『使いにくい』との回答も一部あり、老朽化や設備不足、バリアフリー対応など個別の要望がある可能性があります。自由記述との照合によって詳細なニーズを把握する必要があります。

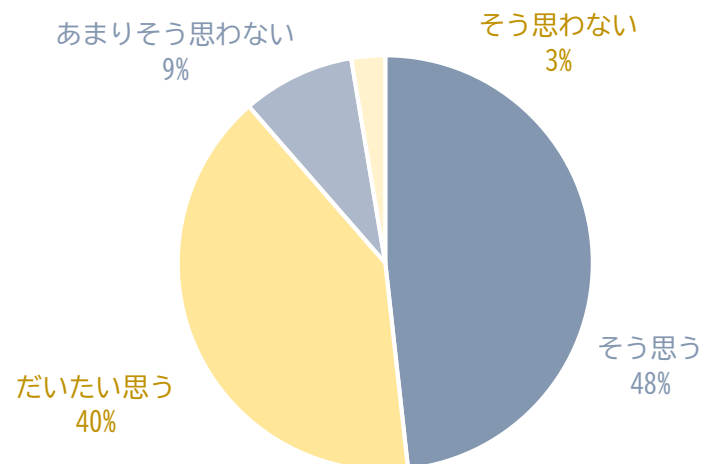
#### Q11 困ったときに相談できる先生や大人はいますか？



『はい』が約9割を占め、生徒にとって安心できる相談相手の存在があることは重要な成果です。ただし『いいえ』と答えた15名の生徒の存在は見すごせず、「誰一人取り残さない教育」のためには、全教職員による見守り体制の強化が求められます。

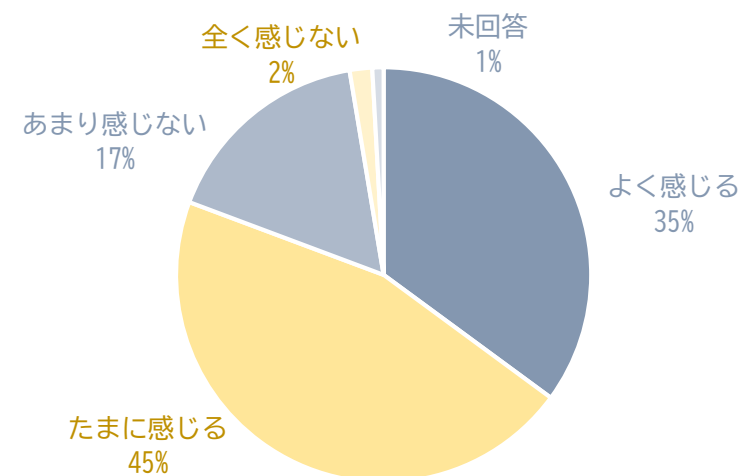
### 03 中学生

#### Q12 いじめについて、学校はしっかり対応していると思いますか？



『そう思う』『だいたい思う』の肯定的な回答が約8割に達し、学校の対応への信頼が一定程度得られていることがわかります。一方で『あまりそう思わない』『そう思わない』の否定的回答も10%以上あることから、相談体制の見える化や周知方法に改善の余地があると考えられます。

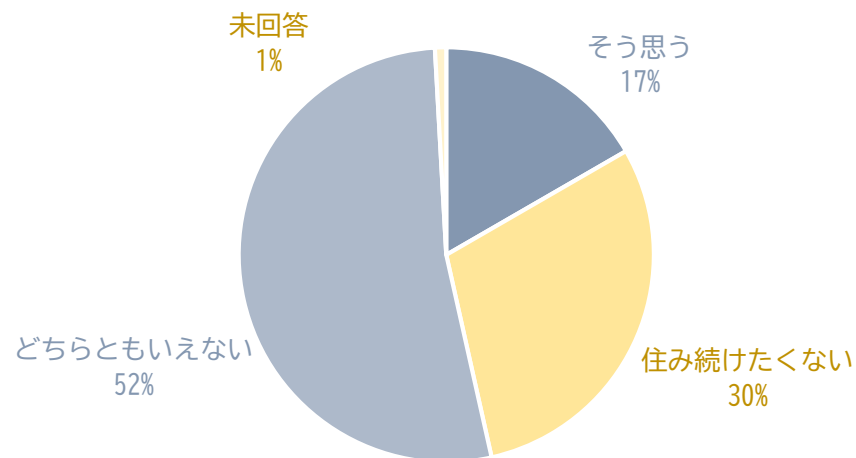
#### Q13 学校で自分が大切にされていると感じますか？



『よく感じる』『たまに感じる』との回答が大多数ですが、『あまり感じない』『まったく感じない』とした生徒も約2割存在しています。自己肯定感を高める日常的な声かけや関わりが、学級経営や個別指導の中でより丁寧に行われる必要があります。

### 03 中学生

#### Q14 将来、国見町に住みたいと思いますか？



過半数（52.6%）が「どちらともいえない」と回答しており、進路選択や将来像がまだ固まっていない中学生らしい傾向が見られます。また、3割近くが「住みたくない」と回答しており、将来的な進学・就職の選択肢が町外にあると考えている可能性があります。一方で、「住みたい」と明確に答えた生徒は17%未満にとどまり、将来の定住への意識は限定的であると言えます。

#### Q15 前の質問（Q14）で答えた理由はなぜですか？

Q14『将来、国見町に住みつづけたいと思いますか？』の回答を3分類（そう思う／どちらともいえない／住みたくない・わからない）に分け、内容を分析しました。中学生の率直な思いや期待、不安などが読み取れる結果となっています。

##### 1 そう思う（住みたい）

- ・あたたかみをかんじるから。
- ・自然がたくさんあるから
- ・国見町が好きだから
- ・良い町だから
- ・生活しやすいから
- ・育った場所だから
- ・国見で生まれたから。
- ・優しい人がいっぱい
- ・美味しい物や義経祭りがあるから。

中学生の『住みたい』という回答には、『自然』『人の温かさ』など、身近で実感している国見町の魅力が素直に表れています。小学生と比較して、より地域の文化や伝統（例：義経祭り）にも言及が見られ、地元に対する帰属意識や誇りが育まれている様子がうかがえます。今後もこのような地域資源を活用した教育活動が、定住意識の醸成につながると考えられます。

## 03 中学生

### 2 住みたくない

- ・違う場所で住んでみたいから
- ・都会が便利だから都会に行きたい
- ・もう少し発展している建物や物がある場所に行きたいから
- ・職業の選択肢が少ない／高校以上の学校が少ない
- ・海がないから
- ・何もないから。この先もあんまり変わらないと思ったから
- ・何もないから
- ・もっと広い場所で仕事したい
- ・生活できる環境にあるけど他のところに出かけたりするには遠いから
- ・この辺だと働ける所が福島市とかに行かないと無いから

「住みたくない」と回答した中学生の自由記述には、「進学・就職・生活の選択肢が少ない」「発展性が感じられない」など、将来の見通しへの不安が顕著に見られました。また、「都会志向」や「利便性の欠如」「娯楽・自然環境への物足りなさ」など、より広い視野で自らの未来を捉えようとする姿勢が読み取れます。こうした視点は中学生特有の成長段階を反映しており、教育ビジョンとしては“町に戻ってこられる選択肢”を提示することが課題となります。

### 3 どちらともいえない／わからない

- ・便利なお店や建物(スーパーマーケットや飲食店など)が近くにないから。
- ・空き家も多いから。過疎化もしているから。
- ・まだはっきりしないから
- ・まだよく分からない
- ・お店がなく、利便性がない
- ・違う場所で住んでみたいから
- ・修学旅行など通して、都会の良さに気づいたから
- ・都会が便利だから都会に行きたい
- ・都会に住みたいと思ってるから
- ・特に住みたいとも住みたくなとも思わないから。
- ・仕事がありませんから

『わからない』という分類には、『まだ決まっていない』『利便性がない』『都会に行きたい』など、将来の進路や生活環境への不確実性や憧れが多く含まれています。中学生として、自分の将来像を模索する過渡期にあることが反映されており、進路指導や地域の魅力発信の両面から丁寧な支援が求められます

## 03 中学生

### Q16 学校で「もっとこんなことをしてみたい！」

自由記述の内容は小学生同様、多岐にわたりましたが、主に以下のような傾向が見られました。

#### 1. 遊び・レクリエーション活動の充実

「全校生で交流できる行事を増やしてほしい」「他の学年との交流を深めること」など、中学生も小学生と同様に、学校を「楽しみ、つながる場所」として捉えていることがうかがえます。学年を越えた関係づくりや、自分たちの手でつくるイベントへの関心は高く、協働的な学び・自治的な活動への素地が育っていると言えます。

#### 2. 地域・社会との関わり

町の人ともっと関われる授業をしたい」「地域の人と交流できる機会がほしい」「町の魅力を発信する活動がしたい」など、中学生になると視野が家庭や学校の外にも広がり、「地域とのつながり」への興味も見られるようになります。これは、地域学習・ふるさと教育・キャリア教育などと関連づけて強化していくことで、郷土愛や社会性を育む好機となります。

#### 3. 学年・学級間の交流

「全校生で交流できる行事を増やしてほしい」「全学年でひとつの事をやってみたい」「違う学年の人と交流」など、学年を越えた活動を望む声が複数見られました。これは、学級単位で閉じた人間関係ではなく、より広い交流によって刺激を受けたいという子どもの内発的な動機を示しています。

#### 4. 専門的・探究的な学びの希望

「ゲームプログラミング体験」「AIを使った授業」「保育体験」「企業見学」など、中学生らしく、将来の進路や興味に直結する探究・体験的学習へのニーズも多く見られます。特に、ICTや職業体験系の要望は、高校進学やキャリア選択を意識し始めたタイミングでの関心の高まりを反映しており、地域資源と連携したプログラム設計が期待されます。

#### 5. イベント・娯楽性の高い活動の希望

「有名人が来てライブ」「アイドルを呼んでほしい」「第二回修学旅行をしてほしい」など、お楽しみ要素の強い意見も一部見られました。非現実的な内容も含まれますが、そこには「記憶に残る学校行事」への期待が込められており、生徒にとっての学校の意味づけの一つと言えます。

#### 6. 否定的回答・現状満足

「特にない」「思いつかない」など、一定数の生徒は「特に要望なし」「満足している」と回答しています。これらは学校生活への満足度の高さとも解釈できますが、反対に「自分の意見を表現することへの抵抗」や「関心の薄さ」が背景にある可能性もあり、継続的な観察が必要です。

小学生に比べて、地域・将来・学びに対する関心の深まりが見られました。一方で、交流やイベントのニーズも依然として強く、「学校＝楽しみの場」として機能することへの期待がうかがえます。探究活動・地域連携型教育が、今後の教育ビジョンにおいて中学生に最も響く柱の一つと考えられます。



## 03 中学生

### 自由記述から見える教育ビジョン改訂へのインサイト

#### 1. 「地元への愛着」はあるが、それだけでは残らない

自由記述 「自然が多くて好き」「家族がいる」「落ち着く」といった理由で「住みつづけたい」とする声が一定数あり、感情的な愛着は存在するが、「働く場」や「学ぶ場」が無ければ定住にはつながらない。町への愛着を定着に変えるには、将来像と接続する機会の提供が必要といえます。

#### 2. 「進学・就職で町を離れるのが当たり前」という価値観

自由記述 「進学のためには出なければならない」「将来は都会で働きたい」「就職先が少ない」など、自由記述からは「進学や就職で町を離れるのが当たり前」という前提をうかがわせる声が多くみられます。この傾向は、町に残ることが十分な選択肢として認識されていない可能性を示しています。

#### 3. 「何もない町」というイメージが定着している

自由記述 「遊ぶところがない」「コンビニしかない」「田舎すぎる」という否定的意見が散見されます。都市部と比較され、「何もない」が若者の共通認識になっている可能性が高い現状があります。町の強みや“あるもの”を再発見・発信する教育的なアプローチが必要です。

#### 4. 将来像が未確定な層が多い

自由記述 「わからない」「まだ考えていない」という回答が多数ありました。中学生という年代特有の「将来の不確実性」が見られます。だからこそ、キャリア教育や地元の魅力に触れる体験の設計が重要といえます。「考えるための材料を持たせる」教育がカギといえます。

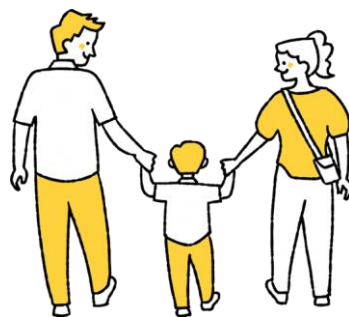
#### 5. 「国見町の未来」そのものを知らない／描けない

自由記述 自由記述からは、町の将来像（ビジョン）に対する理解・接点のなさがかがえます。町の教育ビジョンや将来戦略を、中学生にもわかる言葉で共有し、対話する場が必要です。単なる情報提供ではなく、“共に考える”設計が求められています。

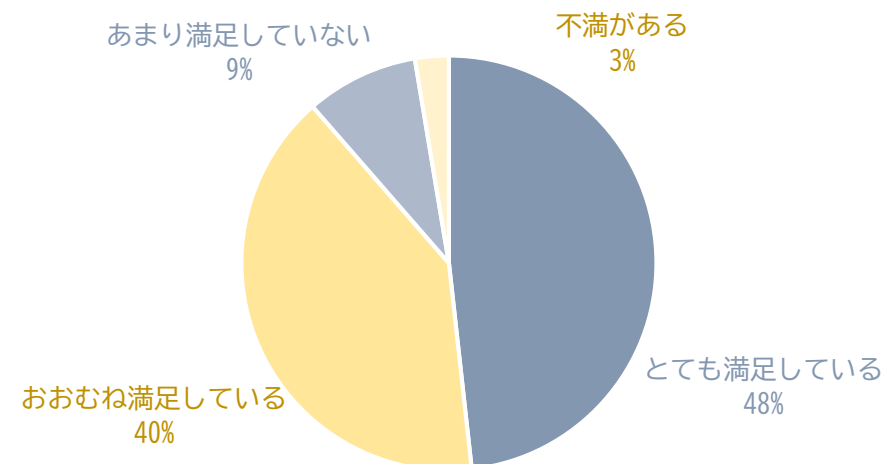
中学生たちは、町への一定の愛着と同時に、「外の世界」への期待や「構造的な離脱圧力」を抱えていることがわかります。教育ビジョンの中では、以下を重視すべきといえます。

- ・ 町の魅力や可能性を再発見できる学習体験の設計（例：地域探究・職業体験・Uターン事例紹介）
- ・ 「進学・就職＝町を出る」の単一解から、「戻る・残る」も含めた選択肢の多様化
- ・ 若者が「自分が町の一員である」と実感できるような参画機会の創出（例：ビジョンづくりへの意見表明など）

## 04 保護者



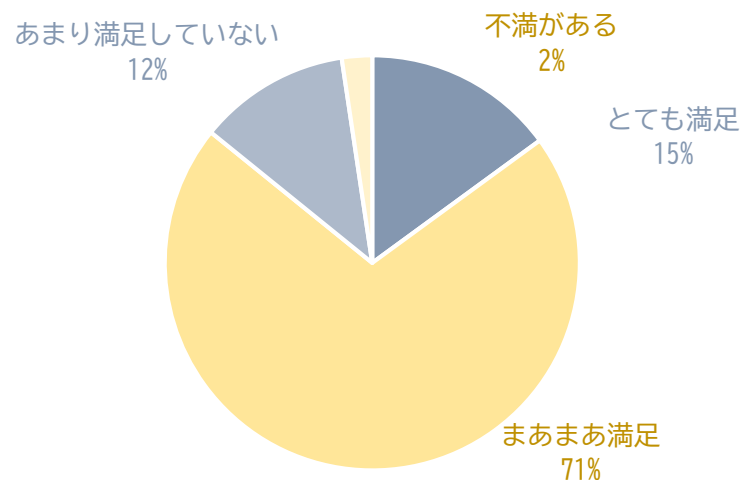
### Q1 お子さんの学校生活に満足していますか？



「とても満足」「おおむね満足」と回答した保護者が多数を占めており、総じて子どもの学校生活に対して肯定的な評価がなされていることがわかります。一方で「あまり満足していない」「不満がある」とする回答も一定数存在しており、全体としては良好な印象を受けるものの、学年や学校、または家庭の状況により満足度にばらつきがあることが推察されます。今後は、個別の声に耳を傾ける姿勢と、満足度を高める施策の両立が重要になると考えられます。また、学年末や進学・進級時期など、時期によって評価が変動する可能性もあるため、継続的な調査が望まれます。

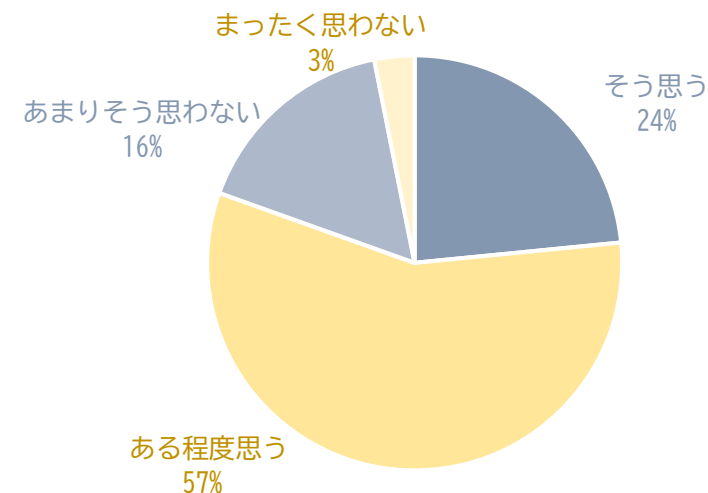
## 04 保護者

### Q2 授業の内容や学びの深さに満足していますか？



授業内容については「とても満足」「まあまあ満足」が多く、概ね良好な評価が得られているといえますが、「あまり満足していない」「不満がある」との声も見受けられました。保護者にとって、授業の質を直接把握する機会は限られていることから、日頃の家庭への説明や成果の見える化、家庭との連携によって教育内容の納得度を高めることが有効と考えられます。特に、家庭学習の支援方法や授業参観の内容などを通じた透明性の確保が信頼向上に寄与します。

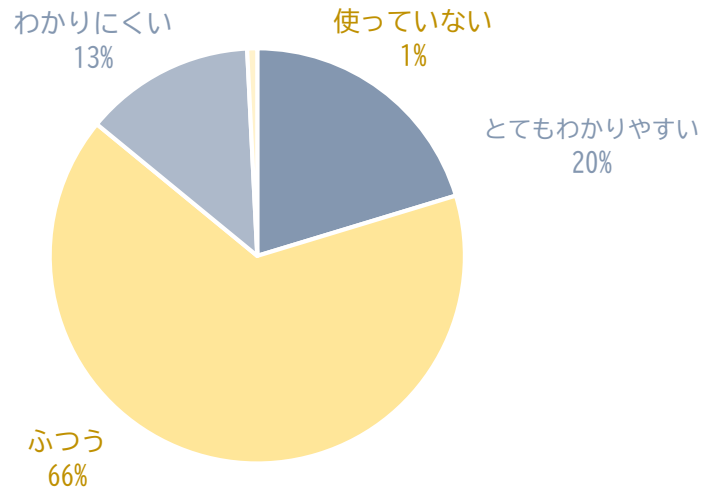
### Q3 学校と家庭との連携は十分だと感じますか？



「そう思う」「ある程度思う」と答えた保護者が多数派を占めた一方で、「あまりそう思わない」「まったく思わない」との否定的な回答も一定割合存在しており、家庭との連携については温度差があることがわかります。学級通信や面談の充実、保護者向けの情報提供方法の工夫など、コミュニケーションの量と質の両面での向上が期待されます。また、保護者会や学級活動など、参加しやすい仕組みづくりも検討の余地があります。

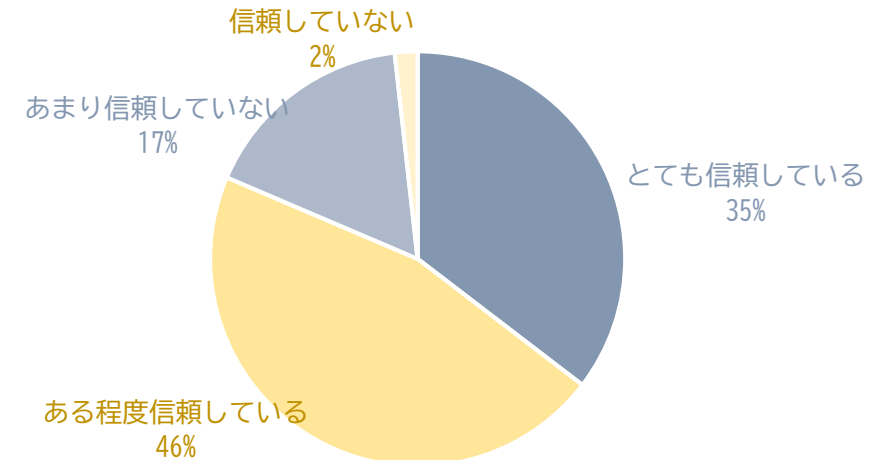
## 04 保護者

### Q4 学校からの情報提供（連絡帳、プリント、アプリ等）はわかりやすいですか？



情報提供のわかりやすさについては「とてもわかりやすい」「ふつう」との回答が大半を占めているものの、「わかりにくい」「使っていない」という回答も一定数見られました。ICTを活用した配信方法（アプリやメール等）が普及している中で、家庭側の環境整備や習熟度への配慮も必要であり、手段の多様化と情報伝達の丁寧さが求められます。とくに今後は多文化家庭や高齢の保護者の増加も予想されるため配慮が必要になってきます。

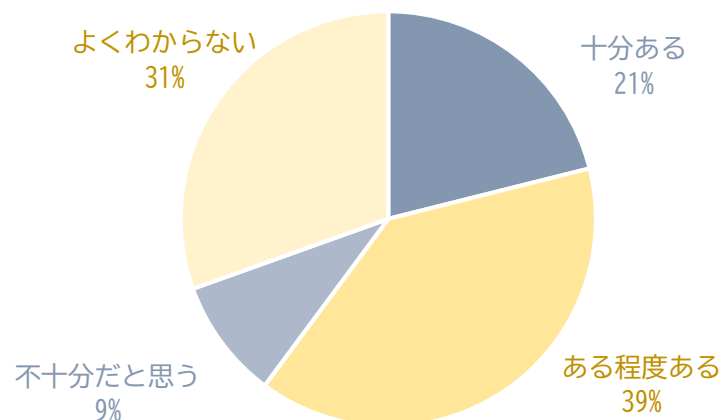
### Q5 学校の先生方は信頼できますか？



「とても信頼している」「ある程度信頼している」とする声が多数であり、学校現場に対する一定の信頼が保たれていることがわかります。ただし、「信頼していない」「あまり信頼していない」との回答も確認され、個別の接し方や対応の透明性、説明責任のあり方が今後の課題として挙げられます。信頼は一度失われると回復に時間を要するため、日常的な対話や丁寧な対応を通じて信頼関係を継続的に育むことが求められます。

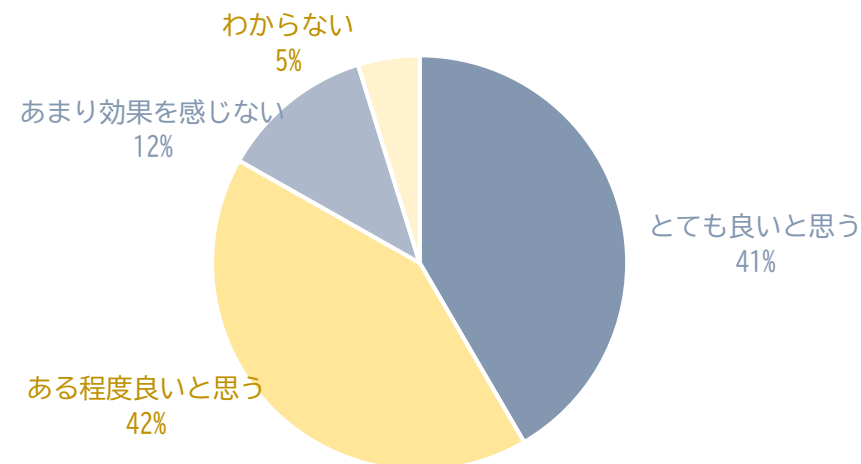
## 04 保護者

Q6 特別支援や個別対応が必要な子への配慮は十分だと思いますか？



「十分ある」「ある程度ある」との回答が過半数を占める一方で、「不十分だと思う」「よくわからない」という保護者も一定数存在しました。特別支援教育は、対象児童生徒や家庭に対する配慮だけでなく、保護者や教職員間の理解促進、施策の見える化が必要です。学校だけでなく町としても丁寧な説明と支援体制の構築が望まれます。あわせて、未就学段階からの支援の切れ目ない接続も意識する必要があります。

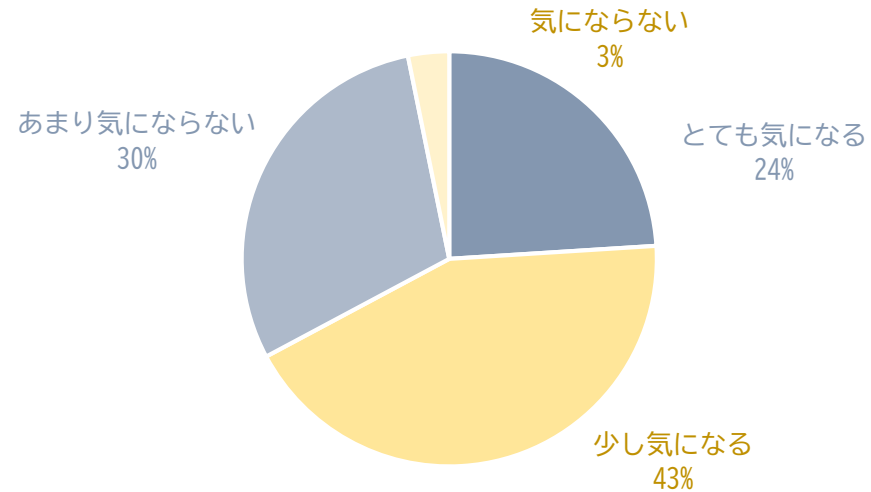
Q7 ICT機器（タブレット等）を使った学習についてどう思いますか？



「とても良いと思う」「ある程度良いと思う」が大半を占め、ICT活用についてはおおむね肯定的に受け止められていることがわかります。一方で「効果を感じない」「わからない」との回答も一定数存在し、保護者の立場からは活用の成果が見えづらいことも課題です。今後は、成果の可視化とICT活用の目的明確化が求められます。また、機器トラブルや家庭でのサポートの困難さに対する支援体制も併せて整備が必要です。

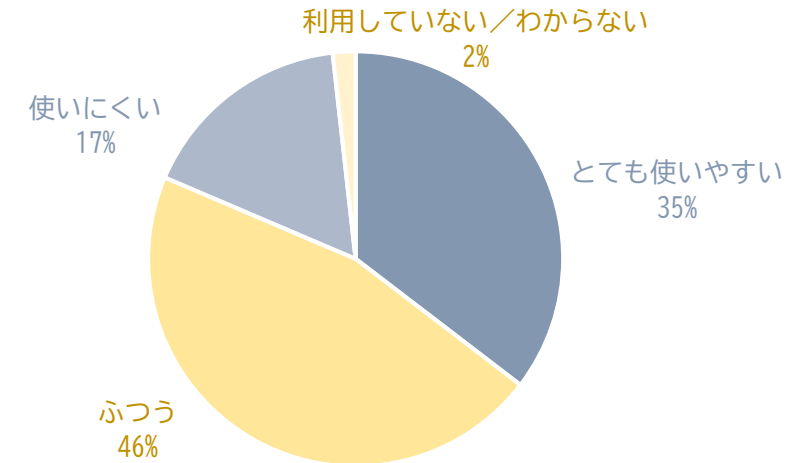
## 04 保護者

### Q8 校舎や施設の老朽化が気になりますか？



「とても気になる」「少し気になる」と答えた保護者が過半数に達しており、施設の老朽化が保護者にとって懸念事項であることが明らかとなりました。教育環境の安全性・快適性を確保するため、定期的な点検や補修、保護者との情報共有が重要です。今後の学校施設の改修計画においても、保護者の声を反映させることが求められます。

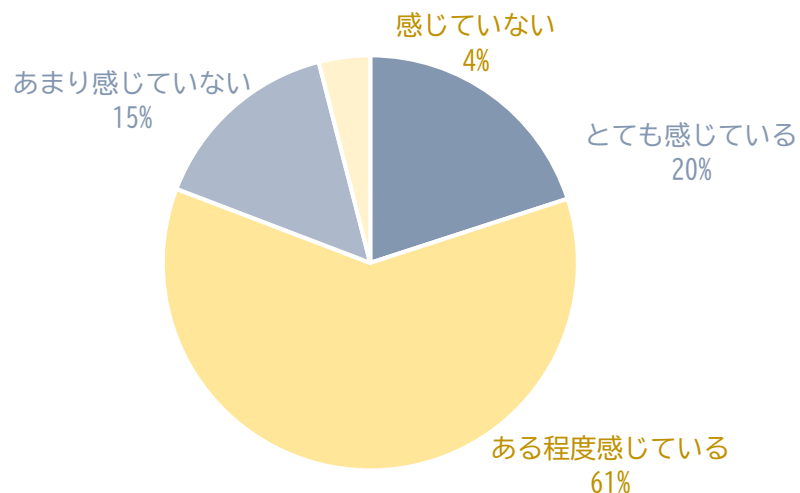
### Q9 設備（図書室、トイレ、体育館など）は使いやすいと感じますか？



「とても使いやすい」「ふつう」という回答が多数派である一方、「使いにくい」「利用していない／わからない」という声もあり、施設によって使用状況に差があることが想定されます。改善要望を具体的に把握するためには、自由記述や学校ごとの調査との突合が有効です。また、子どもの使い勝手と保護者の認識にギャップがないか検討する必要があります。

## 04 保護者

Q10 お子さんは学校で「大切にされている」と感じていますか？



「とても感じている」「ある程度感じている」が多数を占めており、子どもの自己肯定感や安心感が一定程度確保されている様子がうかがえます。一方、「あまり感じていない」「感じていない」とする回答も一定数あり、日常的な声かけや個別対応の丁寧さが問われています。担任以外の教職員との関係性にも注目し、学校全体での見守り体制が鍵となります。

Q12 保護者として、学校にもっと取り組んでほしいことがあれば教えてください。（自由記述）

この設問からは、保護者の「学校への具体的な要望」「地域・家庭の役割」「制度的な改善点」「感謝や信頼」など、多様な意見が見られました。内容は単なる不満ではなく、実践的で前向きな提案も多く含まれており、教育行政・学校運営にとって重要な指針となりえます。

以下に代表的な意見を掲載します。

### 1. 家庭教育の重要性に対する提言

「学校に取り組んでほしいこと」という設問に違和感がある。まずは保護者自身の家庭教育が大切であり、それを町としても啓発してほしい。

### 2. 地域外との交流を通じた学びの深化

他校との交流（オンライン授業、ホームステイなど）を通じて子どもたちの視野を広げてほしい。自身の小学生時代に静岡の学校との交流が非常に有意義だった経験から。

### 3. 学習内容と設備に関する要望

宿題の量が減った。発展的な内容の学習（算数オリンピック的な問題）も取り入れてほしい。トイレにバグ用のフックがあると良いと感じた。

<< 次ページへ続く >>



## 04 保護者

### 4. 個別支援と家庭支援の見直しの提案

☞ クラス単位よりも個の力を伸ばす意識を大切にしてほしい。家庭への指導が改善につながっていないことの原因を分析し対応を求めたい。

### 5. 情報提供の改善提案

☞ 週の予定だけでなく、月の初めに月間予定や準備物のプリントが欲しい。アプリやホームページでの随時更新も検討してほしい。

### 6. 学校と家庭の関与に関するバランスの指摘

☞ 子ども同士のトラブルは教師が介入し、保護者を過剰に巻き込まないでほしい。行政が責任を回避しないことが重要。

### 7. 中学校の宿題に関する不安

☞ 小学校と比べて中学校に入ってから宿題が減った。学習時間が減少しており、もう少し課題を出してほしい。

### 8. 表現力育成の提案

☞ テストも大切だが、作文など書く力を育てる宿題も出してほしい。

### 9. いじめに対する対策強化の要望（要約）

☞ 教師が気づかないような陰湿ないじめがあると聞いている。適切な対応をお願いしたい。

### 10. 学校への感謝の気持ち

☞ いつもありがとうございます。

保護者から寄せられた自由記述には、教育内容や学校運営に対する具体的かつ前向きな意見が多数寄せられていました。内容は大きく以下の4つの傾向に分類できます。

### 1. 教育内容・学習支援への要望

多くの保護者が、宿題の量や内容、発展的な学び（作文や思考力重視の課題など）、中学校での学習時間確保など、学びの質と量の両面に関心を示していました。また、ICT活用を通じた家庭学習支援や教科間の連携強化に期待する声も見られ、教職員の働き方と家庭との連携を意識した声が目立ちました。

### 2. 施設・設備への具体的な提案

トイレへのフックの設置など、児童生徒の実生活に即した細かな設備改善の提案もありました。こうした声は学校生活の「快適さ」や「安全性」を保護者目線で示しており、現場改善のヒントとして非常に有用です。

### 3. 家庭・地域・学校の関係性に関する指摘

「家庭教育の重要性」や「保護者の関与のあり方」に関する意見も複数見られました。学校に全てを求める風潮への危惧や、保護者自身の責任を自覚する必要性を述べた記述からは、教育を社会全体で支える視点が感じられます。一方で、学校が家庭間の対立に巻き込まれないよう配慮すべきとの提言や、いじめ対応に関する不安の声も寄せられており、関係者間の信頼形成とリスクマネジメントの重要性が改めて浮き彫りとなりました。

<< 次ページへ続く >>



## 04 保護者

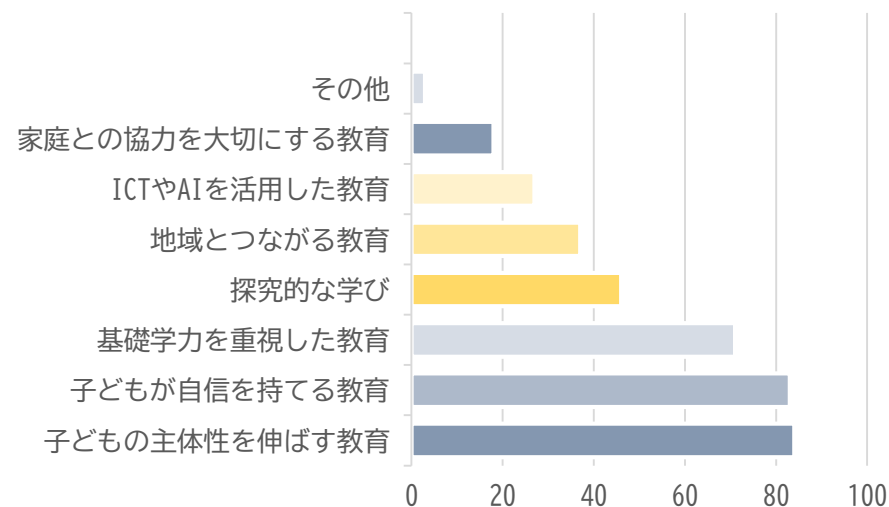
### 4. 情報提供や連絡体制の改善提案

ICTや紙媒体を併用した情報伝達の工夫、予定の早期提示など、家庭の実情に即した要望が多数見られました。忙しい保護者にとって「必要な情報が必要な時に届く」ことは学校との信頼関係に直結する要素であり、改善へのニーズは根強いことが伺えます。

全体を通して、保護者は学校の教育活動に強い関心を持っており、単なる批判に留まらず、具体的かつ建設的な提案を多く寄せていました。保護者の声を「改善のための資源」として前向きに受け止め、教育委員会および各学校が協働して改善につなげる姿勢が、今後の教育ビジョン実現に向けて不可欠です。



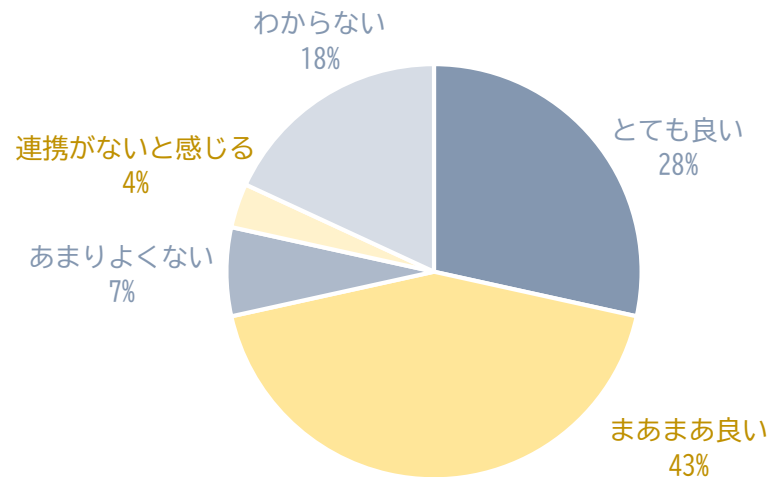
### Q12 国見町の教育が「どんな方向に進んでほしい」 と思いますか？（複数回答可）



保護者からの回答で最も多く選ばれたのは、「子どもの主体性を伸ばす教育」（84件）と「子どもが自信を持てる教育」（83件）であり、ほぼ同数で突出した結果となりました。これらは、単に学力や成績だけでなく、「個の尊重」や「自己肯定感」の向上を重視する姿勢が家庭側に広がっていることを強く示しています。また、「基礎学力を重視した教育」（71件）も依然として高い支持を集めており、従来型の学力観と新しい教育観が併存している現状がうかがえます。

## 04 保護者

### Q13 地域と学校との連携（地域学校協働活動）について、どう思いますか？



「とても良い」「まあまあ良い」と答えた保護者が過半数であった一方、「あまりよくない」「連携がないと感じる」「わからない」とする回答も目立ちました。地域との連携の成果を保護者が実感できていない可能性があり、活動内容の周知や参加機会の提供が課題と考えられます。加えて、活動が特定の保護者や地域に偏ることのないよう、全体の巻き込みや情報の平準化が必要です。

### Q14 国見町の教育に対して、今後期待することがあればお書きください。（自由記述）

この設問からは、全75件の記述があり、子どもたちがこれからの時代を力強く、そしてしなやかに生き抜いていくために、町の教育に対する多様かつ具体的な期待が読み取れました。回答内容は大きく以下の観点に分類されます。

#### 1. 探究的な学び・多様な体験活動の推進

近年注目されている「探究型学習」や「主体的な学び」に対する理解・期待が保護者の中でも浸透してきている様子が見られました。「もっといろいろな体験をさせてほしい」「興味関心を育ててほしい」という声が多く、学習指導要領で示された「生きる力の育成」とも一致しています。あわせて「他校や他県との交流」など、視野を広げる機会への要望も目立ちました。

#### 2. 心の教育・人間力の育成

礼儀・あいさつ・マナーなど、日常生活や人との関わりの中で身につけるべき人間性に関する記述も多く、「テストの点よりも大切なことがある」という保護者の価値観が垣間見えました。特に「自己肯定感」や「思いやりの心」といった非認知能力の重要性を指摘する声が複数あり、これらを育てるためには、家庭教育との役割の整理と連携が急務であるといえます。

<< 次ページへ続く >>

## 04 保護者

### 3. 教育環境（ハード）の整備に関する要望

校舎や体育館の老朽化、トイレの衛生面、設備の使い勝手に関する記述が複数見られました。特に中学校の体育館やトイレについては「寒い・狭い・臭い」といった否定的な表現が多く、子どもたちの安全・快適な学習環境確保という基本的な課題に対して、町としての責任ある対応が求められています。

### 4. 学力・指導体制の充実への期待

「学力の底上げ」「丁寧な指導」「宿題の充実」など、教育内容そのもののへの関心も非常に高いことが明らかになりました。特に中学校段階における学習量の不足や指導のムラについて懸念が示されており、小中一貫したカリキュラム設計や人材の質の向上が期待されています。

### 5. 情報提供や保護者との連携強化

「連絡が急すぎる」「ICTでの情報共有をもっと活用してほしい」といった、学校から家庭への情報提供に対する改善要望も見られました。家庭の多様化や保護者の就労環境を背景に、情報のタイミング・内容・媒体への配慮が求められています。

Q14の自由記述では、単なる要望や不満というよりも、「町とともにより良い教育を育てたい」という保護者のまなざしが随所に感じられました。こうした意見を丁寧に受け止めることは、教育委員会・学校に対する信頼の醸成にもつながります。

今後、教育ビジョンの改訂にあたっては、これらの意見を定性的データとして活用し、施策・計画への反映とともに、「保護者との協働」を理念として明文化していくことが望まれます。

## Q15 ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

保護者からの自由記述には、教育行政全般に対する多角的な視点が含まれており、「施設の整備」から「教育の質」「子育て支援」「情報提供の工夫」まで、町の教育をめぐる幅広い課題と期待が読み取れました。以下にその主な傾向をまとめます。

### 1. 学校施設・設備に関する具体的な改善要望

体育館への空調設備の設置やトイレの改修に関する要望が多く、子どもたちが日々使用する空間の快適性や安全性に対する意識の高さがうかがえました。特に「熱中症対策」「トイレの明るさ・衛生面」などは、実際の使用体験に基づいた切実な意見です。

代表意見：「夏の体育は柏葉体育館を使えるようにしてほしい」「トイレをもっと明るく使いやすくしてほしい」

### 2. 学習支援・子育て支援への期待と感謝の声

子どもクラブのプログラムや、高校受験対策講座など、学習支援策への評価や感謝の声も複数見られました。一方で、子どもクラブに関しては「高学年の満足度」「指導者の質」に関する懸念も表明されており、教育支援と保育支援の両立が課題として浮かび上がっています。

代表意見：「子どもクラブが頼りにならない時がある」「受験講座の取り組みは素晴らしい」

<< 次ページへ続く >>

## 04 保護者

### 3. 教職員や学校への信頼と感謝の意見

「支援員の存在が心強い」「問題時の連絡・対応が的確」といった声から、教職員に対する感謝の気持ちや信頼の厚さがうかがえます。学校との関係性が良好であることは、家庭と学校の連携の土台となる重要な要素です。

代表意見：「支援員の先生が多くて安心」「学校全体で対応してくれるのがありがたい」

### 4. 情報提供の在り方への提案

プリントの視認性に対する不満や、デジタル活用に関する提案も見られました。「見えにくい写真」「文字が小さい」といった実務的な課題が挙げられ、今後の連絡手段におけるデジタル化や視認性の改善が求められます。

代表意見：「プリントの写真が見づらい」「提出が不要なものはPDFで配布してほしい」

### 5. いじめや人間関係の課題への注意喚起

「いじめは絶対に見逃さないでほしい」という明確な訴えが寄せられており、家庭側が学校の対応力に不安を感じている部分も示唆されます。迅速で可視化された対応を通じて、安心できる教育環境づくりが今後も重要です。

代表意見：「いじめは見逃さないでください」

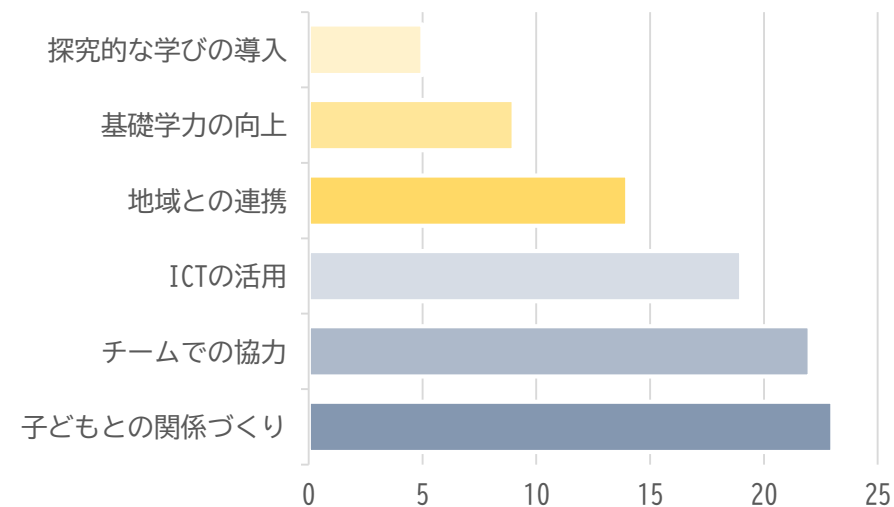
Q15は自由記述という形式ながら、具体的な改善提案と教育に対する感謝・信頼の双方がバランスよく寄せられた設問でした。保護者の関心は「教育の本質」と「日常的な環境改善」の両面にまたがっており、それぞれに対して丁寧なフィードバックと説明責任を果たす姿勢が、教育行政への信頼を支える鍵となります。



## 05 教職員



### Q1 現在の教育現場で「うまくいっている」「良いと感じること」は何ですか？

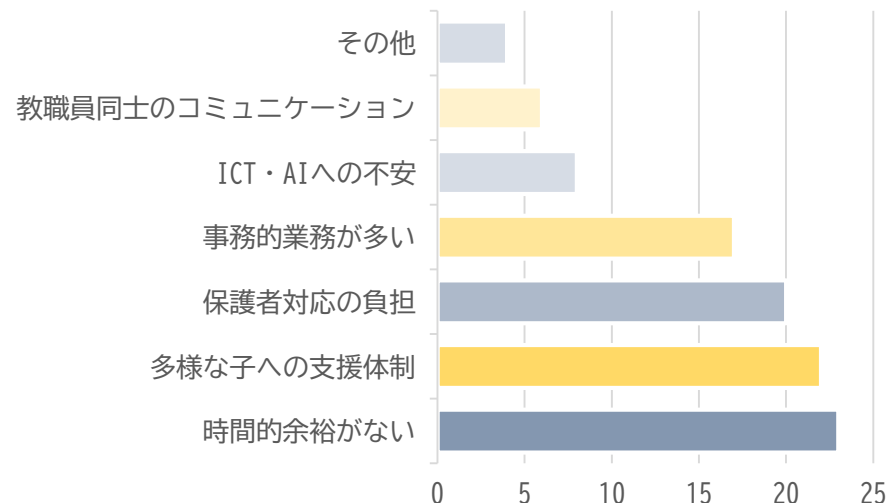


教職員が現場で「うまくいっている」「良い」と感じている項目として、最多だったのは「子どもとの関係づくり」（23件）でした。これは、教員と児童生徒との間で日常的に信頼関係が築かれており、安心・安全な学習環境の土台が整っていることを示しています。「子ども理解」や「傾聴」「寄り添い」といった姿勢が、現場の文化として根づいていると考えられます。

次いで、「教職員のチームでの協力」（22件）が多く挙がりました。学校組織としての協働体制が、一定程度機能していると評価されており、教員の働き方に対し、緩やかな分担・支え合いの文化が根付きつつある状況がうかがえます。

## 05 教職員

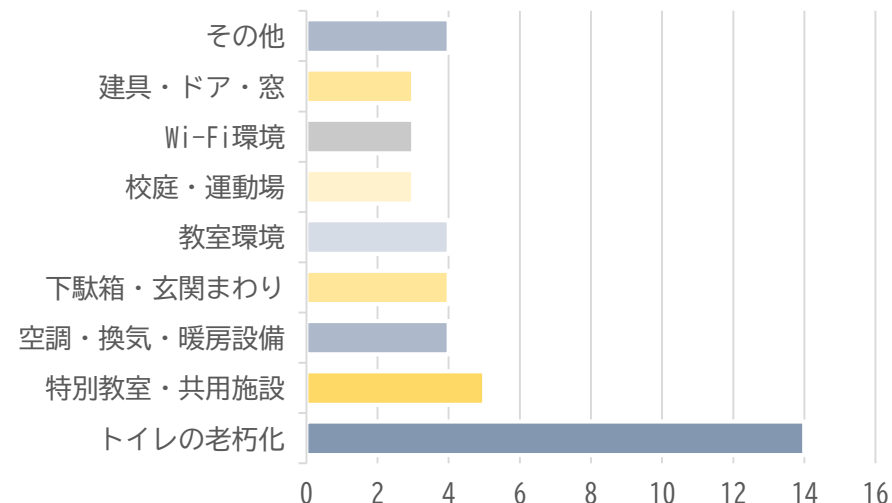
### Q2 現場で「課題や負担を感じていること」は何ですか？ (複数選択可)



教職員が現場で課題・負担として感じている要素として最も多く挙げられたのは「時間的余裕がない」(23件)でした。「事務的業務が多い」(17件)も多く挙げられていることから、教職員が本来担うべき「教育」に専念できない状況が、依然として続いていることを示しています。また、「多様な子への支援体制」(22件)も多く挙がっており、支援対象児童生徒の増加や個別対応の複雑さ、加配体制の不足などの課題が明らかとなっています。

総じて、物理的・制度的な構造課題が教職員の負担感の背景にあるため、単なる「個人努力」では解決困難な部分に対しての支援が急務です。

### Q3 校舎・施設・設備の老朽化や不具合について、気になる点がありますか？(自由記述)



教職員が校舎や施設の老朽化・不具合について「気になる点がある」と回答した件数は多数に上りました。中でも「トイレの老朽化」(14件)が突出しており、喫緊の課題と捉えられている状況です。

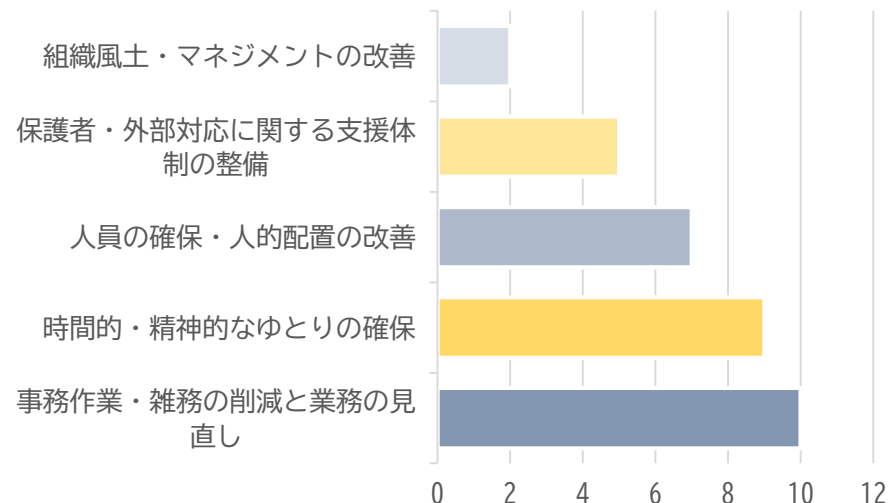
また、暑さ・寒さへの対応が不十分な施設では、子どもたちの集中力の維持や健康面での懸念も生じており、日常的な教育活動に支障をきたしていることがうかがえます。

今後は、施設の現況を定期的に点検・可視化し、計画的な修繕や更新当、ハード面からの教育環境整備を段階的に進めていく必要があります。



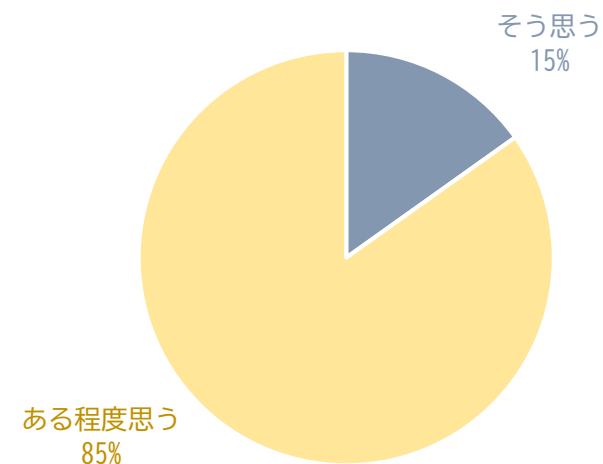
## 05 教職員

### Q4 教職員が「教育に専念できる環境」をつくるために、何が必要だと思いますか？（自由記述）



教職員が「教育に専念できる環境」を整えるために必要だと考えている要素として、最も多く挙げられたのは「事務作業・雑務の削減と業務の見直し」（10件）でした。これは、授業や児童対応と直接関係しない業務が日常的に大きな負担となっており、教育本来の業務に割く時間や集中力が奪われている現状を反映しています。今後は、教育委員会や学校が一体となって、業務の棚卸し、業務分担の再構築、外部人材の活用（スクールサポートスタッフ等）を進めるとともに、ICTやAIなどの技術も効果的に取り入れることが、教職員の「教育専念環境」を実現する上での鍵となります。

### Q5 子どもたちが「安心して学んでいる」と感じますか？



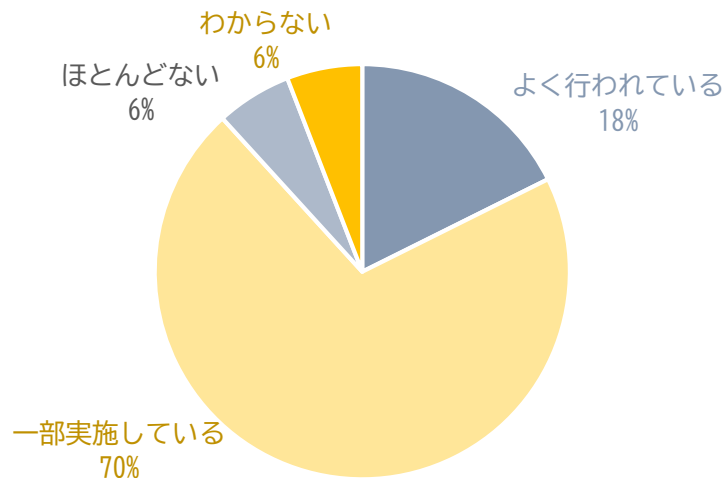
本設問では、全ての教職員が「そう思う」「ある程度思う」と回答しました。子どもたちの情緒的安定や学習環境における安全性が一定程度確保されていることを示しています。

背景には、教職員による日々の丁寧な関わり、いじめ対策や個別対応、学級経営の工夫など、日常的な実践の積み重ねがあると考えられます。

今後は、安心・安全の「当たり前」を全校的・全児童的に保障する視点から、校内支援体制やスクールカウンセラー等の活用、教職員間の情報共有体制の強化が求められます。

## 05 教職員

Q6 学校での「探究的な学び」は、どの程度進んでいると感じますか？

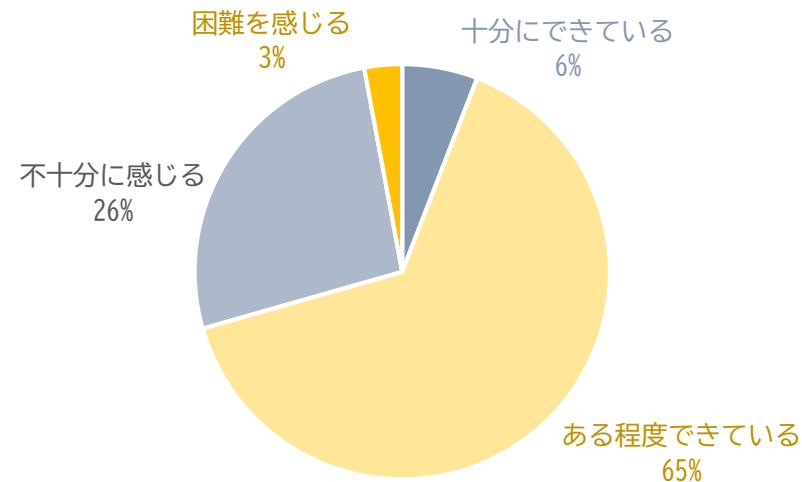


教職員に対して「探究的な学び」の進捗感について尋ねたところ、

「一部の授業で取り入れている」(24件)が多数を占めており、探究的な学びは一部の実践にとどまっていることが示されました。

これは、探究的な学びに必要とされるカリキュラムマネジメントの柔軟性や、教員の授業設計力、評価の在り方といった点において、まだ発展途上であることを示唆しています。一方で、「進んでいると思う」と回答した教職員も一定数存在しており、そうした学校・学年・教員における実践をいかに他へ波及させていくかが今後の課題となります。

Q7 多様な子ども（発達・家庭・文化など）への対応についてどう感じていますか？



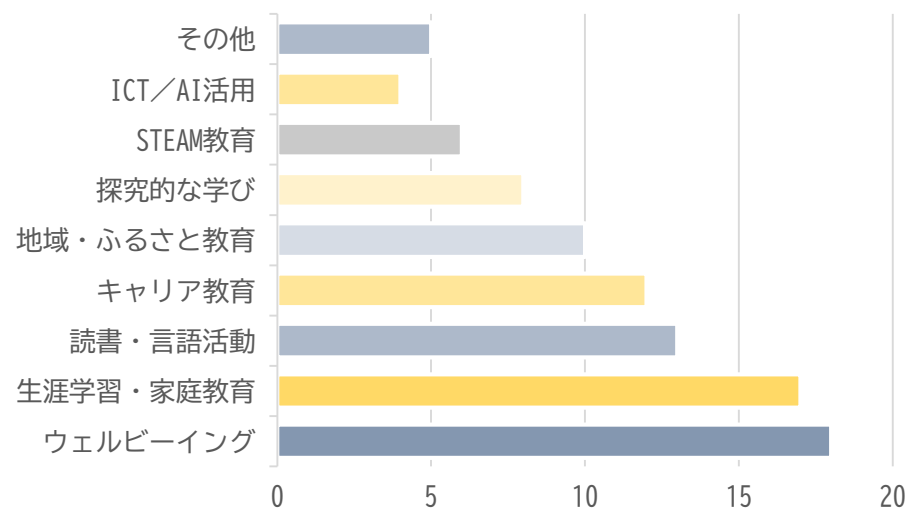
本設問では、「十分に対応できている」と回答した割合は少なく、多くが「一部は対応できているが課題もある」と考えていることがわかりました。

この傾向は、特別支援教育や家庭的背景・文化的背景への配慮などにおいて、教職員が日々課題意識を持ちながらも、十分なリソース（人員・時間・知識）や支援体制が整っていない実態を反映していると考えられます。今後は、校内体制の整備に加え、保健・福祉・医療・地域との協働、多文化理解の推進、教職員向け研修等を通じて、多様性への対応力を高めていくことが求められます。



## 05 教職員

Q8 今後、町として力を入れるべき学びのキーワードは何だと思いますか？（複数選択）



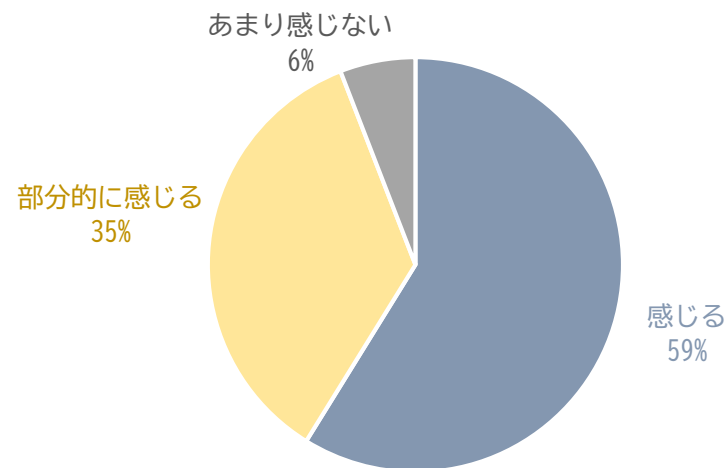
教職員が今後、町として力を入れるべきと考える「学びのキーワード」として、最も多く挙げられたのは「ウェルビーイング」（18件）でした。

これは、児童生徒の心身の健康、幸福感、安心できる学びの場の保障など、教育の質の根幹に関わる視点が重視されていることを示しています。

次いで「生涯学習・家庭教育」（17件）、「読書・言語活動」（13件）、「キャリア教育」（12件）と続き、家庭・地域との接続や基礎的学力の定着、将来を見据えた支援といった側面が重視されていることが分かります。

教育ビジョンの改定にあたっては、こうした声を踏まえる必要があります。

Q9 校内や職場で「チームで支え合っている」と感じますか？

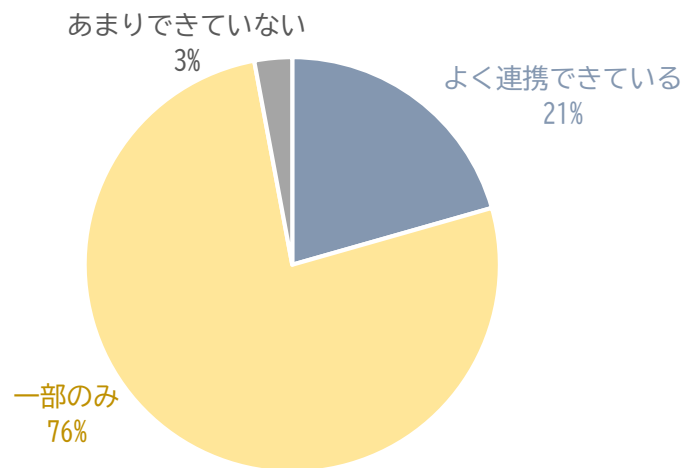


本設問では、「感じる」「部分的に感じる」と肯定的に回答した割合が全体の約9割を超えており、学校内での協働意識・チームとしての機能が一定程度形成されていることがうかがえます。また、「部分的に感じる」の選択からは、日常業務の中で助け合いや情報共有はあるものの、まだ改善の余地があると感じている教職員も多いことが示唆されます。

今後は、形式的な分担や役割分担にとどまらず、心理的安全性のある組織づくりや、対話の機会の保障、ピアサポート制度の整備といった、実質的な『支え合い』を促進する仕組みづくりが求められます。

## 05 教職員

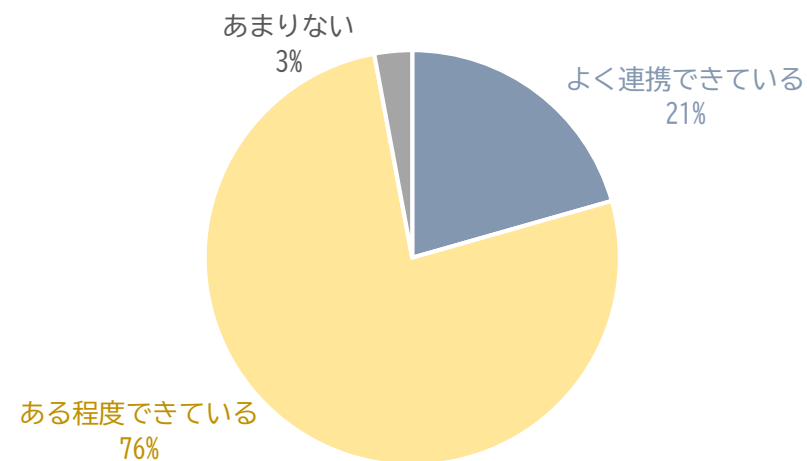
### Q10 地域や外部との連携は、どのくらいできていると感じますか？



地域や外部との連携に関する設問では、「よく連携できている」「一部のみ」と回答した教職員が過半数を占めました。特に「よく連携できている」との回答がごく少数にとどまっている点からは、教職員自身が連携を「部分的」「断片的」なものと感じており、より体系的・継続的な連携の枠組みや支援体制の整備が求められていることが分かります。

今後は、地域の人材・団体・施設との関係性を構築・可視化しながら、日常的な授業や学校行事に自然に組み込まれる形での連携を目指すとともに、地域協働型の学び（例：地域課題解決型PBL、世代間交流等）の深化が必要です。

### Q11 学校と家庭・地域との連携は十分だと思いますか？



本設問では、学校と家庭・地域との連携が「よく連携できている」「ある程度できている」と肯定的に回答した教職員は9割を超え、一定の連携の仕組みや実践が日常的に行われていることがうかがえます。特に「ややできている」が多かったことから、教職員は現状の連携に一定の成果を感じつつも、より質的・量的な深まりを必要としていると捉えていると考えられます。

今後は、家庭や地域を『支援対象』としてではなく、『教育の協働主体』と捉える視点に立ち、具体的な体制整備が求められます。

## 05 教職員

### Q12 連携や支援に関して「こうだったらもっといいのに」と思うことはありますか？（自由記述）

本設問では、教職員が日頃の連携や支援に対して感じている課題や改善への要望などについて自由に記述してもらいました。

回答は多岐にわたり、教育活動を取り巻くさまざまな側面が浮かび上がりました。以下に主な傾向と代表的な意見を分類ごとに整理し、分析を行いました。

#### 1. 役割分担・体制改善

- ・役割分担を明確にし、お互いに負担なく業務を行いたい。
- ・打ち合わせの時間の確保，学校行事や町の行事などとの関連性を持たせ，精選を行う。

#### 2. 支援体制・人的リソースの強化

- ・不登校傾向、不登校の児童の保護者に対する積極的なバックアップがあるといいと思います。不登校傾向から不登校へ、不登校から引きこもりへと移行する事を防ぎ、将来的に国見町に面倒を見てもらうのではなく、町を背負っていける子供を育てられればと思います。
- ・これまでに勤務してきた地域と比べ、国見町は地域の方々に支援していただく機会が多いと思います。感謝しております。
- ・いつもコーディネーターの方々の温かいご協力に感謝しております。

#### 3. 地域・家庭との連携に対する感謝・肯定

- ・総合的な学習を主として、町の皆さんに協力をいただいています。大変ありがたいです。一方で、国見学と題して、あらかじめ内容が決まっている現状もあります。児童の興味・関心を主体とし、やらされている感を無くすように指導していきたいです。

#### 4. 制度・運用上の工夫の要望

- ・検定試験の外部委託。補助金を出したり、模試を行ったりするのであれば、町で受付、町で会場実施が望ましい。

#### 5. 課題の伝達に関する難しさ

- ・多々ある。しかし人間関係重視の空気の中で、仕事として伝えることが困難。

本設問からは、連携や支援に関する課題意識が多岐にわたっており、単なる不足感だけでなく、それをどう改善していくべきかという具体的な示唆が多く寄せられました。

特に人的支援や支援員の配置に関しては、学校現場の負担感の大きさが現れており、支援の“仕組み化”が喫緊の課題とされています。

全体として、連携・支援の充実は、教職員だけでなく子どもたちの学びと育ちに直結するとの認識が共有されており、これらの意見は今後の体制整備や支援策の立案において、極めて重要な材料となります。

## 05 教職員

### Q13 教育ビジョンの改定に期待すること・取り入れてほしいことはありますか？

本設問は、教育ビジョンの改定に対する教職員の現場感覚や課題意識、そして将来への期待を探るうえで、きわめて重要な示唆を含む設問です。全体として、理念と現実のギャップを埋めるための具体的な提案や、子どもたちの育ちを本質的に捉え直す視点、さらには教職員の働く環境や連携体制に関する言及が多く見られました。

以下に、主な傾向を分類し、代表的な意見を紹介します。

#### 1. 子ども中心・非認知能力・学びの本質への期待

- ・多忙化解消が生徒に還元され、よりよい教育活動につながると思います。生徒の学ぶことが増えることがすなわち生徒のためになることばかりではない。
- ・国見の子供たちに限ったことではないのかもしれませんが、自分で考えること、自分でアイディアを出しクリエイティブな作業をすることを避ける子どもが多いと感じます。こういったことに、アプローチする手立てがあればと考えます。
- ・子どもが真ん中の改定に期待しております。
- ・子どもたちへの教育とともに、保護者さんへの子育てに対する意識を育てていけたら、子どもたちにとってもよいと思います。

#### 2. 教職員の働き方・体制整備・支援への要望

- ・少人数教育による一人一人への支援の充実のためにも、教職員の人数確保。
- ・チーム学校を支えるスタッフの更なる充実をお願いしたいです。

#### 3. 地域・家庭との協働・開かれた学校像

- ・現場、家庭それぞれの願いをしっかりと反映できればいいなと思います。
- ・子どもたちへの教育とともに、保護者さんへの子育てに対する意識を育てていけたら、子どもたちにとってもよいと思います。

#### 4. 教育ビジョンの具体性・実効性への提言

- ・将来国見に戻ってきたく魅力的な教育ビジョン、キャリア教育
- ・教育ビジョンが実現されているのかもっとショートスパンで振り返りを行った方がよい。
- ・幼小中の連携を明確にしてほしい。

この設問に寄せられた回答は、教育ビジョンに対する単なる要望にとどまらず、現場で教育に携わる者の矜持、そして地域の未来を担う子どもたちへの責任感が強くにじみ出たものでした。

教育ビジョンを、現場との乖離なく具体的かつ実効性のある形で再構築するためには、こうした現場の声を丁寧に汲み取り、予算・人材・裁量などを総合的に設計していく必要があります。

ビジョンの本来の役割が、未来の希望と現実のギャップをつなぐ“橋”であることを再認識し、現場とともに育てていくプロセスが重要です。

## 05 教職員

### Q14 教職員の立場から、町の教育政策に提案したいことがあれば教えてください（自由記述）

本設問は、教職員の立場から町の教育政策に対する提案や期待を問うものであり、教育現場の視点からの具体的かつ建設的な意見が数多く寄せられました。特に、学校・家庭・地域を巻き込んだ連携体制の強化、教職員の支援、子どもたちの多様な学びへの対応など、実効性の高い政策提言が見られました。

以下に分類し、代表的な意見を紹介します。

#### 1. 地域社会との連携・地域ぐるみの教育

- ・生涯学習的な視点で、現在学校で行なっている検定やその他の学習活動も小学生や地域住民も参加できるような形でできるものは学校を離れて行うことを検討してはどうでしょうか。
- ・職場体験活動の事業所探しや打ち合わせ等のサポートを生涯学習課でしていただけるとありがたい。
- ・学校行事などとの発達段階・学習時期などとの関連性のある行事の配置。そのための打ち合わせ（行事反省や教育課程編成など）への町役場職員の参加。実施日時や実施学年、生徒のモチベーション（ニーズ）とのギャップを0に（少しでも少なく）できるように提案したい。

#### 2. 子ども中心の学び・非認知能力育成

- ・子どもを育てるのは、まずは家庭が基本であり、親と子が一緒に活動する機会を提供していくことが必要だと思います。
- ・家庭にも響く啓発活動や、幼少中のよりよい連携のあり方の検討。町の児童（家庭も含めて）の知的好奇心を高める取組
- ・挨拶や言葉遣いがあまりできない子供たち。「町の風土が、、、」と言われるが、諦めたくない。
- ・普通学級に在籍している特別支援適と思われる児童への対応について、学級編成の際、町独自で少人数学級にすることなど、特別な対応は可能でしょうか。
- ・ステップやSSWとの連携をすすめていきたい。

#### 3. 町の教育行政への期待・提言

- ・子供の人数の減少から、幼・小・中の一貫教育（同じ校舎で）を考えていかなければならない時期に差し掛かっていると感じる。
- ・特別支援教育のさらなる充実。スクールバスの予算を削減し、人材確保等へ予算をまわしてほしい
- ・スクールバスのサイズに対して、児童の数がとても少ないのが現状です。1日の運行を一回にして、他の学習時に活用できるといいと思います。
- ・我が子に国見町で教育受けさせたい！と思ってもらえるような教育環境を整えて欲しいです
- ・トップダウンではなく、現場からの声も拾っていただければ。

<< 次ページへ続く >>



## 05 教職員

### 4. 教職員の支援・働きやすい環境整備

- ・部活動の地域移行完全実施。そのための下準備（指導者の確保など）。
- ・検定関係を町でやっていただけるとありがたい。
- ・こども図書館の実施が、直接的な働き方改革ではないと感じる。他地区や様々な自治体の取組を参考に、多くの多様な考えを取り入れながら教育政策を検討していただきたい。

本設問からは、町の教育政策に対する教職員の期待が広く深いことが明らかになりました。

地域との連携に関する意見が多く、町ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりが求められていることがうかがえます。地域住民との交流や協働を通じて、学校教育の枠を超えた学びを広げたいという願いが感じられました。子どもたちの主体的な学びや非認知能力の育成に対して関心が高く、その実現のためには柔軟な教育内容や制度設計が必要だという認識が共有されていました。教職員の負担感や働きやすさに関する提案も多く、支援人材の確保や学校の裁量拡大を通じた持続可能な教育体制の構築が望まれています。

また、町の教育行政に対しては、ビジョンや計画の明示と、現場との双方向的な対話の重要性を指摘する声も複数ありました。本設問の回答群は、教育現場の課題と未来への展望を結ぶ重要な材料となります。

### Q14 教育に関わる中で伝えたいことや想いがあれば ご自由にお書きください（自由記述）

この設問では、教職員が日々の教育活動を通じて感じている思いや理念、現場での実感や提言を自由に述べていただきました。

回答には、子どもたちへの温かいまなざしや教育への深い理解、制度への建設的な提案が込められており、教育現場の生の声として非常に示唆に富む内容となっています。

以下に主な意見を分類し、代表的な記述を紹介します。

#### 1. 子どもへの思い

- ・引きこもりや不登校など、保護者の方と本人の幼少期からの関わりを一緒に見直し、これから社会に出て行けるように支援をしていく必要があると思います。
- ・将来的に自立して逞しく生きていける子供を育てることに、家庭・学校・町が同じ方向を向いて、それぞれにできることに取り組んでいければと思います。
- ・家庭教育の大切さを町全体ですることで教育に関する意識を高めていければと思います。
- ・町行事などへ児童生徒が関わる貴重な経験が多い。その手厚さを通して、国見町の素晴らしさを伝え、ふるさと教育や国見町の未来を背負う人材育成を進めていきたいと思う。

<< 次ページへ続く >>

## 05 教職員

### 2. 働き方や環境面

・教員の多忙化が加速し、特に若い教員が教職に疲れ果てやめたり、病休になったりするケースが自分のまわりでもあります。他職種の方と話をすると、帰宅時間の遅さや勤務時間外の部活動などについて、教職はブラックだとよく言われています。安心して働ける環境づくりと行事削減や精選が急務と感じます。

・他の市町村に比べて、様々な面で非常に手厚くサポートしていただき感謝しております。

・心に余裕がある状態が良い教育につながると考えます。

### 5. 制度・ビジョンに対する意見

・国見町が行なっている子供達への取り組みや施策は、他市町村とは比べられないほど良い取り組みがされている。国見で育ち、国見で生きるそんな町になってほしい。

・保護者への対応は傾聴や共感が必要だと思いますが、学校や町としてのラインがあってもいいのかと感じました。

自由記述の最終設問である本項目では、教職員の方々が教育にかける真摯な想が多く綴られていました。

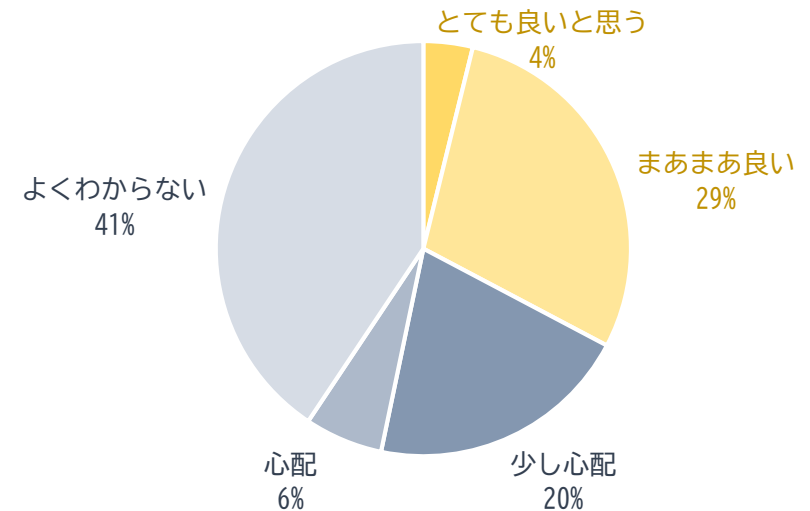
制度や政策の方向性を検討する際には、こうした現場からの声を丁寧にすくい取り、理念に寄り添いながら実践につながる道筋を描くことが、今後ますます重要になるといえます。



## 06 一般町民



### Q1 「国見町の教育」について、どう感じていますか？



本設問では、「よくわからない」（180件）という回答が最も多く、町民の多くが国見町の教育について明確な印象や認識を持てていない状況が浮き彫りとなりました。

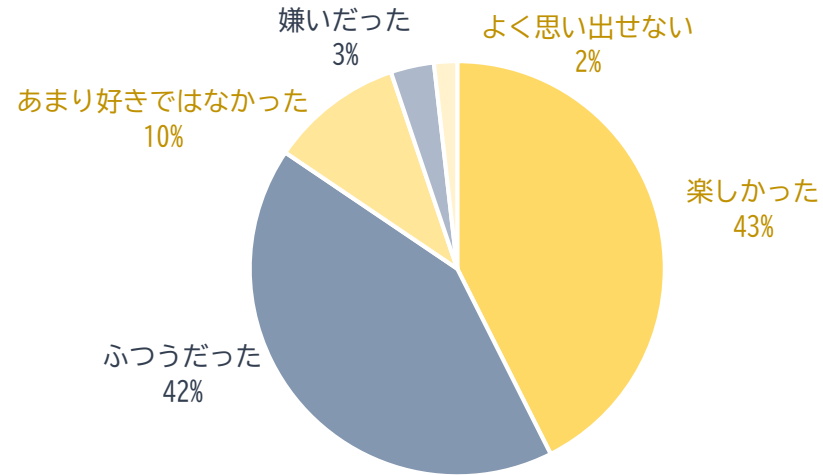
次に多かったのは「まあまあ良い」（128件）で、一定の評価をする声も確認されましたが、強い肯定的評価である「とても良いと思う」はわずか17件にとどまっています。

このことから、教育の現状や取り組みに対する町民の理解・関心の低さが課題であり、積極的な広報活動・情報発信と町民が共感できる教育ビジョンの明示と可視化が重要であるといえます。



## 06 一般町民

Q2 あなたが子どもだったころ、「学校」は  
どんな場所でしたか？

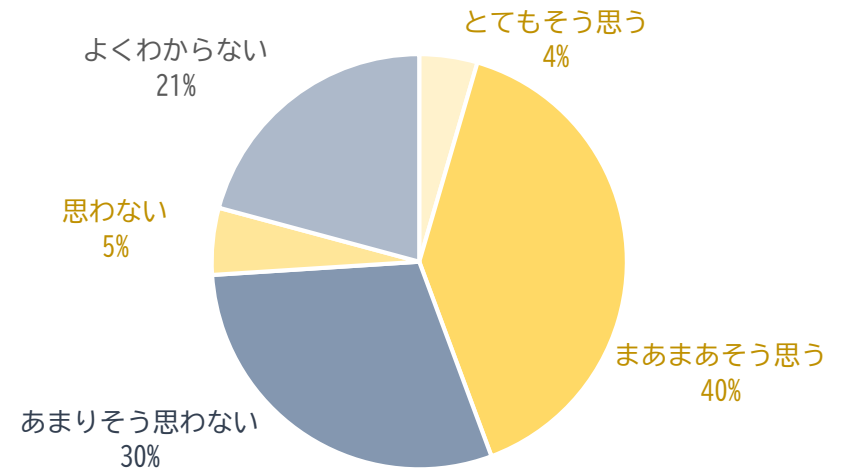


もっとも多かった回答は「楽しかった」で189件、続いて「ふつうだった」が186件と、肯定的あるいは中立的な印象を持っている人が全体の約85%を占めました。

一方で、「あまり好きではなかった」（46件）や「嫌いだった」（15件）といった否定的な印象を持つ回答も全体の約14%存在しており、必ずしもポジティブな記憶ばかりとは限らないことがうかがえます。

教育ビジョンの改定の際には、こうした記憶に基づく肯定・否定の要素を丁寧に受け止め、「誰にとっても安心できる学びの場」理念が求められます。

Q3 現在の子どもたちは「のびのびと育っている」と  
感じますか？

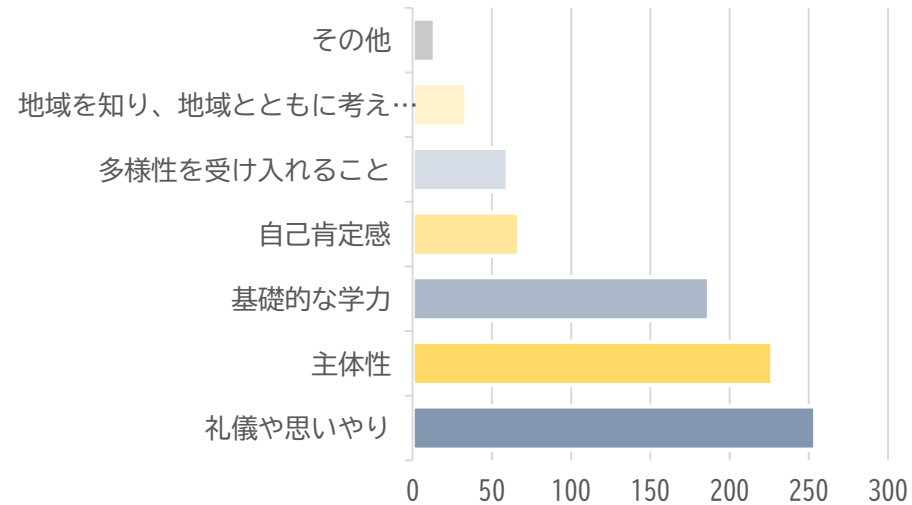


「まあまあ良いそう思う」が最も多く176件（約39.6%）を占めており、一定の肯定的な評価が確認されました。一方で、「あまりそう思わない」（131件）や「思わない」（23件）「よくわからない」（92件）と、否定的・中立的回答が過半数を占めることが明らかとなっています。

町として「のびのびと育つ子ども像」の定義や具体的な成果を町民に対して丁寧に示すことで「わからない」という回答を減らすためにも、日常の教育活動への接点づくりが重要であると考えられます。

## 06 一般町民

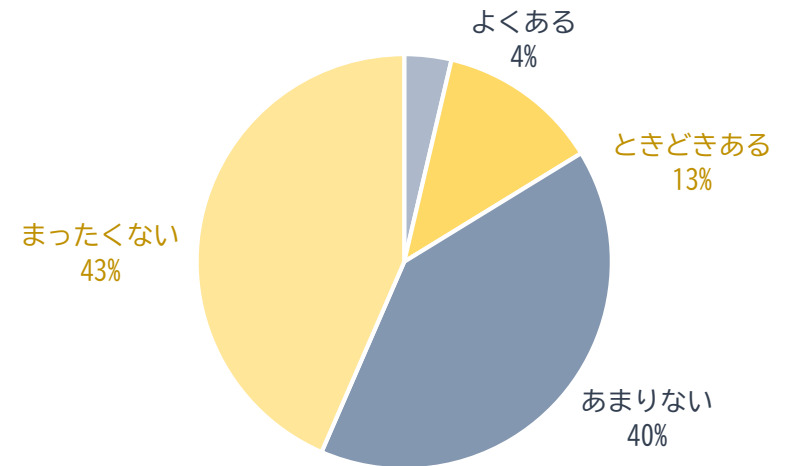
### Q4 教育において最も大切だと思うことを選んでください (選択制・2つまで)



最も多く選ばれたのは「礼儀や思いやり」で254件、次いで「主体性（自分の考えを持ち、行動できること）」が227件、「基礎的な学力」が182件となっており、町民の多くが子どもたちの人間性や自主性、学力をバランスよく重視している様子が見てとれます。人間関係や社会性の基盤となる「礼儀や思いやり」を最重視しており、こうした資質の育成が求められているといえます。

また、「主体性」や「学力」といった能力面も重視されており、知識と行動の両面からの育成方針が町民の期待であり、教育ビジョンでは多様な価値観を包含する姿勢が重要であるともいえます。

### Q5 地域での子どものかかわりがありますか？

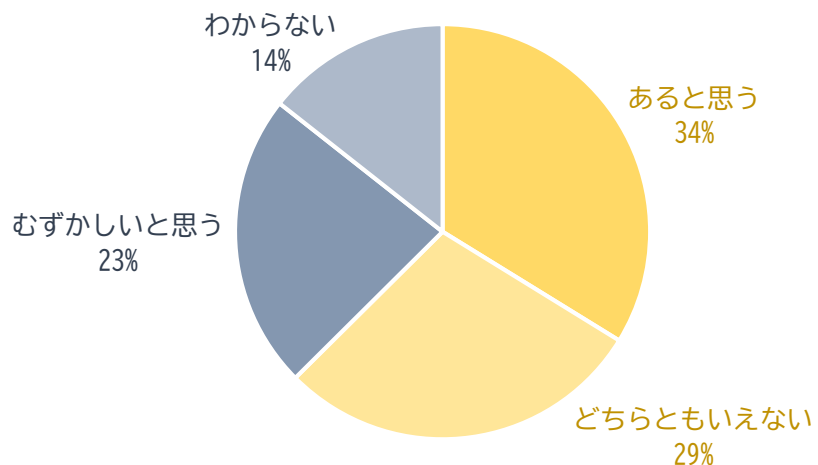


この設問に対して、「まったくない」と回答した方が190件、「あまりない」が176件で、全体の82.5%を占めています。これは、町民の大多数が日常生活の中で子どもたちと接点を持っていない、あるいは持ちづらい状況にあることを示しており、地域社会の中で継続的・能動的に子どもと関わっている町民は少ないことがうかがえます。

今回の結果からは、地域における子どもとの接点が極めて限られている現状が明らかになりました。地域全体で子どもを見守る体制づくりや、学校と地域の連携強化が必要といえます。

## 06 一般町民

### Q6 教育に関して「地域でできること」はあると思いますか？（選択制）



「はい／あると思う」と答えた方が148件と最も多くを占めました。一方で「どちらともいえない」（126件）や「むずかしいと思う」（101件）と回答した方も多く、地域としての教育への関与やその方法について明確なイメージを持ちきれない様子がうかがえます。地域の教育参加を促進するためには、具体的な活動内容の提示や事例紹介を通して町民に参加のイメージを持ってもらう工夫が必要です。

また、地域住民にとっての参加のハードルを下げる仕組み（参加機会の柔軟化やサポート体制の整備など）も今後の重要な検討課題となります。

### Q7 「地域でできること」は何ですか？（自由記述）

本設問は、Q6で「教育に関して、地域でできることはあると思いますか？」に「はい／あると思う」と回答した方を対象に、自由に意見を記述していただいたものです。地域の教育への関心や参画意欲が感じられる123件の記述が集まりました。

#### 1. 地域行事・世代間交流

- ・地域行事や祭りなど親とともに楽しむ、地域への愛着を持ってもらう
- ・地域との交流（商工会、商店会、企業、町内会など）伝統文化の継承（おまつり、慣習、行事など）
- ・月1回くらい他の家族と一緒に集会所などで過ごすこと
- ・クリーンアップ作戦や盆踊りなどへの参加

#### 2. 見守り・安全確保

- ・他の家の子の見守り
- ・見守りや交通安全活動
- ・子どもの行動を見てあげること
- ・居場所作り、子供食堂
- ・登下校の見守り

<< 次ページへ続く >>

## 06 一般町民

### 3. ボランティア活動

- ・地域の方が得意なことを授業の一環として子どもたちに教える。
- ・ボランティアとして学校の行事や授業に参加する。
- ・学校ボランティアとして活動する。
- ・学校協働本部の活動を支援する。

### 4. 学習支援・教室補助

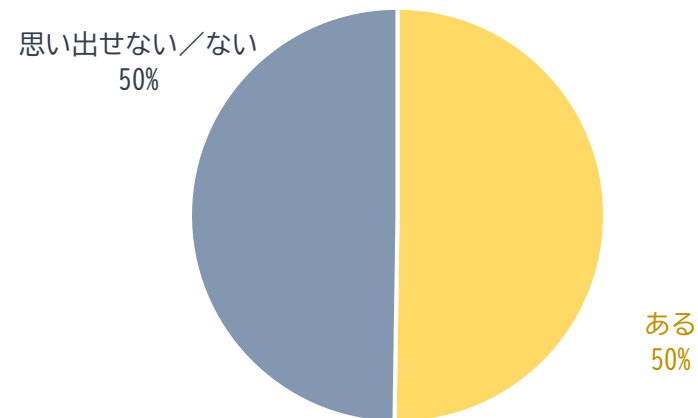
- ・校外学習（製造会社、農業、サービス業、飲食店）社会を知る。
- ・学習塾に通う子供達の補助の支援。
- ・学校行事に町民が参加する機会があればよい。
- ・部活動を通して子供達と接する

### 5. その他

- ・子どもたちのアイデアを実行してあげる体制作り
- ・多くの大人とふれあう。飲食店や施設が子供のはいりやすい環境づくり。
- ・地域行事に積極的に大人が参加すること。
- ・大人の方からあいさつをしていくこと。

全体として、地域の多様な人々が教育に参加したいという意欲が感じられました。特に「見守り」や「行事協力」など、無理のない範囲で貢献したいという姿勢が強く、学校と地域が協働していくための基盤が一定程度形成されていると考えられます。一方で、役割の明確化や参加のきっかけづくりといった、受け入れ側の工夫も今後の課題となるでしょう。

### Q8 あなた自身、子ども時代の「学び」で役に立ったことはありますか？（選択制）



今回の設問では、「ある」と「あまり思い出せない／ない」が半数に分かれる結果となりました。「はい」と回答した方々は、学力や教科知識に加え、「非認知的能力」や「生きる力」といった、より深い意味での“学び”が社会生活の中で重要であることが次の設問によりわかりました。

一方で、「あまり思い出せない／ない」とする回答が同数であったことは、学校教育が個人の記憶や価値として十分に残っていない可能性があり、今後の教育の在り方に一石を投じるものです。特に、学校での学びが社会にどうつながるのか、どう生きるのかを本人が意識的に実感できるような教育設計の必要性が求められます。

## 06 一般町民

### Q9 「学び」で役に立ったこととは何ですか？ (自由記述)

#### 1. 学力・教科学習 (24件)

- ・基礎学力、友達づくり、先生の考え方
- ・小学校時代1年の担任はとても優しく勉強も頑張った。小学校時代は担任の影響がとても大きいと感じている。「教育は人なり」である。
- ・基礎学力の取得
- ・作文等による言語能力の取得は他者とのコミュニケーションや思考整理に役立っています。
- ・漢字の読み・書きなど。計算の仕方、日本の地図、世界の地図
- ・時間終了後のテスト（早く片付けて帰る努力）

#### 2. 対人関係・友人関係 (22件)

- ・先生からの言葉が人生の道です。一生つき合える友人が出来ました。
- ・団体生活、他者との関係、ルールきまり
- ・友人や先輩などの人とのつながりを持てた
- ・学校生活での全て、相手への思いやりなど
- ・中学校で吹奏楽部で先輩に教えていただいてやさしく楽しいとても良い学校生活でした。

#### 3. 体験・行事・地域活動 (33件)

- ・宿泊訓練で協力し合うことが大切だと経験しました。
- ・地域の人たちとの交流、子ども会、近隣の付き合いイベントへの参加
- ・校内で季節の行事（たこあげ、たけうま）を行って交流したこと。
- ・子ども時代様々な職種の方がいたので今あらためて思うと”あの時のあの事か”等々。百聞は一見に如かずとあるように子どもたちに体験は必要だと思います。
- ・地元のまつりに参加し、様々な体験をする。スポ少で、多くの大人から、大切に育ててもらったと感じる。

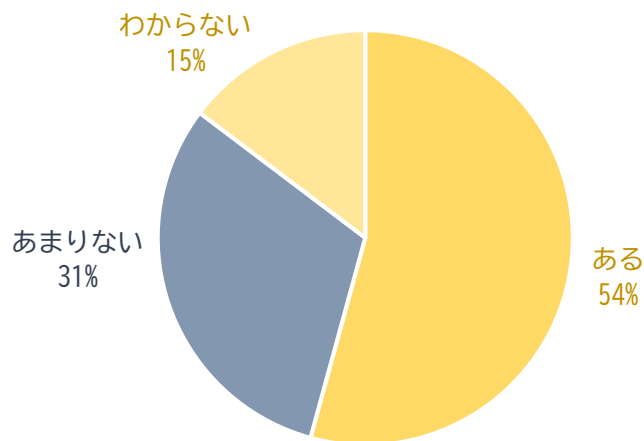
#### 4. 部活動・習い事 (11件)

- ・個人的に習いごとをしたり学校でクラブ活動などでいろいろ学びました。
- ・様々な年齢の方と接すること。読書、部活動
- ・スポーツ少年団や陸上競技大会など
- ・小学生の対抗試合スポーツにおいてコミュニケーションが深まった。

子ども時代に経験したさまざまな学びは、知識としてだけでなく、人間関係や生活態度、社会でのふるまいといった幅広い側面で現在の生活に活かしていることがうかがえました。また、行事や体験活動、部活動などの実践的な学びに価値を見出している声が多く、知識偏重ではないバランスの取れた学びの重要性が示唆されました。教育ビジョンの策定においても、子どもたちが将来「学んでよかった」と実感できるような教育環境の構築が求められます。

## 06 一般町民

Q10 今でも「学んでいる」「知りたいと思う」  
ことはありますか？（選択制）



回答結果からは、「ある」と回答した方が過半数を占めており、学びに対する前向きな意識が一定程度根付いていることが明らかになりました。これは、年齢や職業を問わず、生涯を通じて成長や知識習得を大切にしている方が多く存在していることを意味します。特に高齢化が進む中で「生きがい」としての学びや、健康づくり、趣味の探究など、実生活に直結する学習のニーズが高まっているとも推察されます。

一方で、「あまりない」や「わからない」という回答も合わせて約46%にのぼり、「学び」への意識には温度差があることがわかりました。

あなたが現在「学んでいる」「知りたいと思う」  
ことは何ですか？（自由記述）

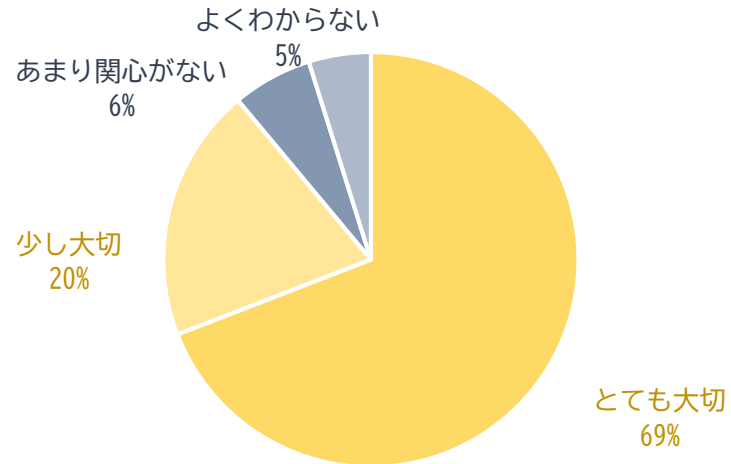
設問では、「今でも学んでいる」「知りたいと思うこと」があると回答した住民に対し、その具体的な内容について自由記述を求めました。回答は94件あり、学びに対する意識の高さや、多様な関心領域が見受けられました。以下に、主な傾向と具体的な意見を紹介します。

1. 語学・教養（13件）
2. 社会・時事（8件）
3. テクノロジー（7件）
4. 仕事・お金（6件）
5. 趣味・自己啓発（5件）
6. 子ども・教育（5件）
7. 生活・健康（5件）
8. その他（45件）

アンケート結果から、子どもや教育をはじめ、社会・政治、健康、テクノロジーなど幅広い分野に興味を持っていることがわかります。特に生活に密着したテーマや時代に応じた技術への関心が見られ、地域住民の学習意欲の多様性と深さが浮き彫りとなりました。今後は、こうした興味関心を起点にした学習プログラムの設計が重要となります。

## 06 一般町民

### Q11 生涯学習（何歳になっても学ぶこと）について、 どう思いますか？（選択制）

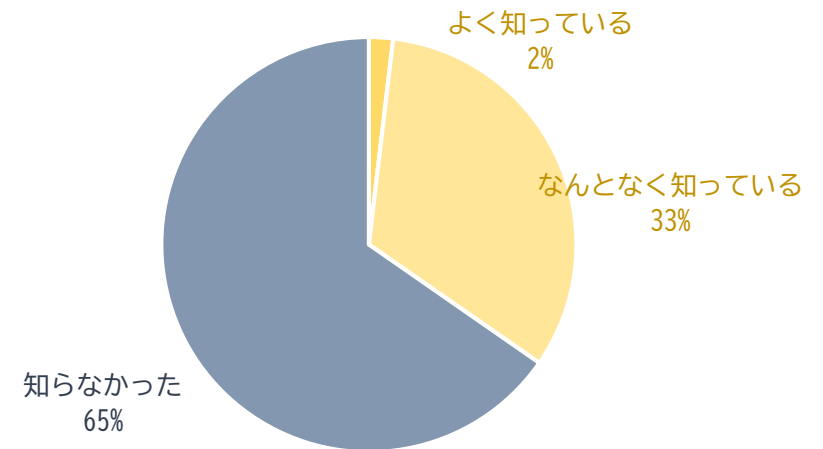


本設問では、『生涯学習』という概念にどれほど価値を感じているかの問いです。注目すべきは、回答者の約9割が「とても大切」または「少し大切」と答えており、これは学齢期に限らず、人生を通じて『学び』を続けることへの高い関心と肯定的な意識を示しています。

近年では、社会の急激な変化やテクノロジーの進化に対応するため、大人の学び直しやスキルアップが注目されています。

教育ビジョンの今後の展開においては、生涯を通じた学習機会の確保や支援の在り方を丁寧に設計することが求められます。

### Q12 教育ビジョンについて知っていますか？ （選択制）



集計結果からは、「知らない」と回答した方が圧倒的多数を占めており、教育ビジョンの周知状況には大きな課題があることが浮き彫りとなりました。

この結果は、町の教育行政に対する関心の低さというよりも、情報の伝達手段やタイミングに問題がある可能性を示唆しています。今後の対応としては、教育ビジョンの内容を町民が自分の生活や地域と関連付けて理解できるよう、具体的かつ継続的な広報・対話の機会が必要です。教育ビジョンは町の未来を形づくる重要な指針であり、行政だけでなく町民と共に育てていくものであるという考え方の浸透が鍵となります。



## 06 一般町民

### Q13 教育ビジョンに、入れてほしい「考え方」や「キーワード」があれば教えてください（自由記述）

本設問では、町の教育ビジョンに盛り込んでほしいと考える「考え方」や「キーワード」について、自由記述形式で回答を募りました。回答には、町民一人ひとりの教育に対する価値観や、将来に向けた願いが色濃く反映されており、地域社会の多様な視点を確認する貴重な機会となりました。

以下に主な意見を分類し、代表的な記述を紹介します。

#### 1. AI・情報リテラシー

- ・情報リテラシー 資産運用
- ・ICTリテラシー

#### 2. 主体性・自己肯定感

- ・考える力、伝える力、判断する力、思いやる心、敬う心、自分を信じる心（肯定感）などが育つビジョンになれば良いと思います。
- ・今の子どもたちはAIスマホなどで何でも知ろうとしている。便利だが人間は本来考える葦である。「考える力」を養って欲しい。
- ・主体性、思考力、判断、表現力。
- ・自己肯定感を高める。
- ・主体性と責任感、常識を疑え。

#### 3. 伝える力・言語能力

- ・有名人のことは聞いていて先生に親しく言葉をかけられた事が大成している人が多い。
- ・あいさつ、笑顔、コミュニケーション能力。
- ・相手の立場に立った考え方ができること 「知識は武器」…この言葉が好きです。
- ・あいさつ 言葉づかい。
- ・責任感、モラル、折れない心、コミュニケーション能力。

#### 4. 公共性・社会性

- ・ルールを守る必要性。
- ・自主性、協調性（協力）体力づくり。
- ・協調性。
- ・社会で生き抜く力。

#### 5. 学力・基礎学習

- ・将来役立つ知識（税金・政治について）。
- ・「読み書きそろばん」を徹底的に。
- ・基礎的な学力。

#### 6. 文化・歴史・地域

- ・国見町の事を他の人に言えるよう地域の事をしっかり知ってほしい。
- ・心豊かでたくましく郷土を愛することができる人。
- ・町全体にいろんな行事があるとPRをし、地域にとけ込み後継者を育成し楽しさ生きがいをそだてて行く。

<< 次ページへ続く >>



## 06 一般町民

### 7. 思いやり・優しさ

- ・ 思いやり
- ・ 礼儀
- ・ 他人を思いやる心
- ・ 義理、人情

### 8. その他

- ・ 親の教育、親の子の教育に対する役割
- ・ 自分の身は自分で守る
- ・ 自然にふれて欲しい

本設問の回答からは、町民の皆さんが教育という営みを通じて子どもたちにどのような力や価値観を身につけてほしいのかという、切実で深い思いが伝わってきます。多岐にわたるキーワードがあげられましたが、それらはすべて、“よりよく生きる”ために必要な人間的な基盤を育てる視点といえます。

また、時代の変化を敏感に受け止め、新たな課題に対応する力や、地域に根ざした学びを重視する声も見受けられ、国見町ならではの教育ビジョンへの期待が随所に込められていました。

これらの意見は、教育ビジョンを町が一方向的に示すのではなく、町民と共に考え、更新していく「共創」の姿勢が今後ますます重要になることを示唆しています。教育における行政の役割は、こうした住民の声を真摯に受け止め、形にしていくことにあると言えるでしょう。

### Q14 町の教育がこれから「どうなってほしい」と 思いますか？（自由記述）

本設問では、町民の皆さまに「町の教育がこれからどうなってほしいか」について自由記述形式でご回答いただきました。回答には、未来の子どもたちのために望む教育のあり方や、町への期待が込められており、地域社会に根ざした貴重なご意見が多数寄せられました。

以下に主な意見を分類し、代表的な記述を紹介します。

#### 1. ICT・情報教育

- ・ 時代に沿った教育（デジタル化）。
- ・ 創造力、読み書き能力の向上を意識した教育と道徳心を養える学校。上記を意識したうえでの教育のデジタル化推進。
- ・ ICT活用の教育を優先と考えるまい。

#### 2. 体験・実践重視

- ・ 子どもの時だからこそできる経験を大切にしたい。
- ・ 子ども達がのびのび遊べる学校。ふれあい活動を通じ上下関係も学んでいける学校。
- ・ 小学校、中学校の部活動の種類を増やして欲しいです。
- ・ 子どもの数が減少しているが現実。だったら世界に目を向けて活動、学べる環境や援助をしてほしい。

<< 次ページへ続く >>

## 06 一般町民

### 3. 地域に根ざした教育

- ・子どもが「わざわざ大人になってからも国見町を選んでくれる教育」をしないと町の人口は減る一方でしょう。でも国見は不便ですしそれでもいいのかもしれない。
- ・国見町に生まれて（住んでいて）良かったと思えるようにしてほしい。
- ・国見町で学んでよかったと思えるようにしてほしい。

### 4. 多様性・個性の尊重

- ・少子化で子どもの数も好かなくなることから、1人1人の個性に合ったきめ細やかな教育支援ができると良い。町民が求める学びの場を提供できるような体制。
- ・世界にはばたく自由な子供たちを！
- ・ひとりひとりの個性をつかみ、楽しく過ごせる場になって欲しい。
- ・一定の方向性を示してもよいのでは？あまりにも自由過ぎる。
- ・子供が自由にのびのびと活動出来る学校 子供が主役、自分を大切に、行動力のある子供達に育ってってもらいたい。

### 5. 学力・進学支援

- ・まずは学力を向上して欲しい。将来必ず役に立つ。
- ・教育の機会と環境を整え学力の向上を図ってほしい。
- ・学力のみならず、運動能力を備える。
- ・基礎学力の定着を図る授業。
- ・規則ばかりで生徒をしぼらずのびのびと育ててほしい。

### 6. 教員・環境の整備

- ・先生を補助できる体制作り（部活/通学/他）
- ・子どもがいきいき過ごせるような環境を作ってほしい。
- ・幼稚園から中学までの一貫教育しかない。
- ・子どもを大切に教育することが町の発展につながると感じている。

### 7. 規律・社会性の育成

- ・あいさつやルール掃除や時間を守ることを一生懸命に取り組む。
- ・一般的な礼儀の習得の場。

### 8. その他

- ・同級生が多い学校になってほしい。
- ・これからの町の教育課題や目標について知りたい。
- ・将来のキャリアを考えられる学校になって欲しい。

自由記述には、未来の子どもたちの成長を真摯に願う気持ちと、町の教育に対する切実な想いが込められていました。特に多かったのは「地域に根ざした教育」「多様性の尊重」「学力や進学支援」への期待であり、一方で「ICT活用」「社会性の育成」「教員や環境整備」など現代的課題にも鋭く目が向けられていました。こうした幅広い意見からは、単なる学校教育だけでなく、地域社会全体で子どもを育てるという視点が重要であることが浮かび上がってきます。

教育ビジョンの改訂にあたっては、これらの声を丁寧に受け止めるとともに、町民との対話を重ねながら、国見町らしい持続可能な教育の姿を共に描いていくことが求められています。

## 06 一般町民

### Q15 教育について思っていること、応援のことは、体験などあればご自由にお書きください（自由記述）

この設問では、町民の皆さまに、今後の教育に対してどのような期待を持っているかを自由にご記入いただきました。回答には、子どもたちに対する思いや、地域の教育に対する熱意、将来に向けた展望など、さまざまな視点からの貴重なご意見が寄せられました。これらの声を受け止め、町の教育施策に反映していくことが求められます。

#### ● 地域・家庭・協働

- ・学校教育も大事だが、生涯にわたって学ぶ機会は大変だと思います。なのでぜひ生涯学習にも力を入れて頂きたいです。家庭で教えられなくなってきている基礎的な知識や技術の習得を学校に求めるのではなく地域で教えていくべきではないかと感じています。
- ・家庭内暴力、友だち同士のいざこざ、自殺などのニュースをみると心が痛む。命は何よりも大切。自分を大切に、同じく他人も大切にリスペクトする社会を強く望む。新しい教育長のもとで豊かな情操を育てたい。
- ・私自身子育てするうえで、子どもの成長の根幹を成すのは「家庭教育」であると考えています。集団や社会での成長もちろんありますが、そこでの学びに向かうためにも「家庭教育」が重要だと感じます。今「教育」はまちづくりにおいても大切な要素であるため、求められるものが多く業務は大変かと思いますが頑張ってください。

- ・町の教育、学校の教育には限界があると思う。子の成長教育の根本は家庭環境のあると思う
- ・教育といっても家庭教育が一番だと思います。

地域・家庭・協働に関する意見からは、町民の中でこの分野に対する関心と課題意識が高いことが伺えます。例えば、地域・家庭との協働においては、地域住民が教育にもっと関わることで子どもたちの多様な学びが広がるという意見や、教員環境に対しては、人的資源の充実や現場支援の必要性が複数挙げられていました。また、ICTや探究活動などの新しい取り組みに期待を寄せる声もあり、国見町の教育に対して「時代に応じた変化」と「地域に根ざした持続性」の両立が望まれていることが分かります。

#### ● 教員・教育環境

- ・教育は難しい分野だと思いますが、教育がなければ人が育たないので良い人材が育つように力添えをよろしくお願いします。
- ・子は宝なのでのびのびとその個性を伸ばしてほしい。国見町に住みたいと思うよう支援してほしい。
- ・教員などの働き方改革によって子どもが経験できる行事などが減っていると感じる。
- ・将来、日本を背負って立つ人材なので自由な発想で変に縛らず大切に育ててもらいたい。
- ・先生のひと言で、その子どもの人生が左右されるくらい大事なことで大切なこと。教える先生への暖かい支援が必要である。笑顔の先生から教わる子どもは幸せであります。

<< 次ページへ続く >>

## 06 一般町民

教員・教育環境に関する意見からは、町民の中でこの分野に対する関心と課題意識が高いことが伺えます。例えば、地域・家庭との協働においては、地域住民が教育にもっと関わることで子どもたちの多様な学びが広がるという意見や、教員環境に対しては、人的資源の充実や現場支援の必要性が複数挙げられていました。また、ICTや探究活動などの新しい取り組みに期待を寄せる声もあり、国見町の教育に対して「時代に応じた変化」と「地域に根ざした持続性」の両立が望まれていることが分かります。

### ● 体験・実践・探究

- ・各子ども会同士交流会やスポ少の体験会等の実施。
- ・食物作れる体験をしてほしい。
- ・知識は必要であるがやはり体験が大事ではないかと思う。
- ・アジアのフィリピンのいなかに行くと学校に行けない子供もいます。でも目は輝いていますし、元気です。子供達の命輝け。
- ・小さいころの思い出、体験は、大人になってもおぼえていることが多いです。小さいころのスキルをあげて、日常をすてきなものにしてほしいです。

### ● 社会性・人間性

- ・私の中学の時の学級は6組ありました。今は1組だけの学年があります。中間、期末テストの時は、全学年中何位になったかと心配して頑張った様に思います。また、部活も大会に出れるかと練習に励みました。どうか小中学校が楽しい思い出に残る時間になります様をお願いします。

- ・国見は教育への関心が高い一方で、これから先に本当に必要になる力を付ける場面が少ないと感じます。正しい知識や先を見据えて予測することができる人々を教育の中心に入れてほしいと思います。
- ・大人が子どもを見ている以上に子どもは大人の様子、心の中まで見ている。
- ・休み時間に校庭で走り回っている姿を見るとホッとします。笑い声が聞こえて大変楽しい様子が見えて心が和みます。
- ・人とのつながりが心の余裕や他人を思いやる気持ちを育むかと。

### ● 学習内容・学力

- ・異なった意見に拒否じゃなくみんなで考える授業がいい。
- ・国見町の子供達高校・大学進学率が低下していると思います。何とか、学力の向上を図ってほしい。
- ・優、中、劣は学力、運動能力に必ず差はある。個人の能力に応じた、教育、無理強い問題は発生する可能性あり。あまりにも、学校、両親が、金銭的な援助や（教科書、給食費等）面倒を見すぎる感があります 高校無償化など 将来に大きく影響有り！ ※両親が、子供の為に収入を得、又節約して育てるべき それが責任では！
- ・これからの若者が「国見町で子育てをしたい」という思いをもてるような教育制度をよろしくお願いします。（例 IT授業(プログラミング)など）
- ・学力は大切です。

<< 次ページへ続く >>

## 06 一般町民

### ● ICT・デジタル

- ・今の子どもさん達はスマホなどにばかり使っていて少し外で遊べるようにしてもらいたい。
- ・小さい子供さんも大きくなり私達は、だんだん小さくなりますが、負けずに頑張り、子供達にはファイト！！って応援したいと思ってます。
- ・最近の子どもたちは何でもスマホにたよっていると思う。スマホは必要だと思うけれども、度がすぎるのは問題だと思う。
- ・端末はMacでAIを使いこなしお金に困らない人生を。

### ● その他

- ・勉強は好きなのですが、好きゆえにお金につながらない勉強ばかりしています。子どもの遊びのようなもので親には迷惑をかけているので子どもには打算的に育ってほしいです。ただし、自分の家族限定です。他人の子どもには優しく育ってほしいです。他人が優しいと自分の家族は助かるので。
- ・米百俵の精神。
- ・教師にとつての働き方改革が子どもにとって本当にいいことなのか正解なのか疑問。
- ・様々な事情を抱える子どもが増えてきた中ですが一人一人の勉強、宿題、提出物、ランドセルの中身、身だしなみなどを見てあげてください。
- ・今の教育について私は何もわかりません。子どもたち同士で話をしているのを聞いているときれいな言葉遣いで、それが今の教育なのでしょうね。

Q15の自由記述では、国見町の教育に対して町民の皆さんが具体的な提案や問題意識を持っていることが明らかとなりました。とくに目立ったのは、地域や家庭との連携の強化を求める声であり、教育を学校だけに任せるのではなく、地域ぐるみで支えていきたいという願いが感じられました。

また、教員の配置や支援体制の強化、ICTを活用した教育の充実など、教育現場の課題とそれに対する改善の方向性も多く提案されており、現場の実態を理解した上での建設的な意見が目立ちました。

さらに、「人間性や社会性の育成」「探究的な学びの推進」「学力向上と基礎の定着」など、教育の多様な側面に対する期待も寄せられており、町民の意識が単なる批判や要望にとどまらず、未来を担う子どもたちの成長を共に支えたいという前向きな姿勢であることが伝わってきます。

こうした町民の声は、教育ビジョンの策定において不可欠な視座であり、行政と住民が協働しながら、持続可能で希望ある教育の在り方を共に描いていくことが求められています。

## 07 おわりに

---

今回、国見町では「国見町教育ビジョン2021」の改定にあたり、町内の小学生・中学生・その保護者・教職員・一般町民を対象にアンケート調査を実施しました。

それぞれの立場から寄せられた声は単なる教育現場の課題にとどまらず、子供たちの将来、地域のあり方、そして私たち大人の責任について多くの示唆を与えてくれました。

アンケートで見えてきたさまざまな意見には共通して「子供たちが幸せに生きるために、大人としてできることは何か」という深い問いかけが含まれていました。教育ビジョンの改定は、その答えを地域全体で考える貴重な機会でもあります。

今回の教育ビジョンの改定が、地域の未来を担う子供たちのために、よりよい教育の実現に向けた一助となることを心から願ってやみません。